

《論文》

ポピュリズム政党の台頭に関する実証研究

下 平 好 博

目次

はじめに

1. ポピュリズムとは？
2. 一部の国からほぼすべての国へ
3. ポピュリズム政党を支持している人は誰か？
4. ポピュリズム政党の台頭によって既成政党もまた変化しつつあるのか？
5. 左翼ポピュリズムは希望か？

おわりに

はじめに

政治史における出来事は歴史にとって塵にすぎない、とフェルナン・ブローデルは大著『地中海』のなかで述べた (Braudel, 1966)。だが、こんにちのヨーロッパの政治情勢をみるにつけ、今後数年の変化が数世紀の歳月を経てようやく築き上げた民主主義の土台を揺るがしかねない、そういう思いに駆られる。たとえば、ギリシャ危機への金融支援に反対して2013年に誕生したドイツの極右政党、「ドイツのための選択肢」(AfD) はいまや、国政はもちろんのこと、すべての州議会で議席を保有し、とりわけ旧東ドイツ地域の州では社会民主党やキリスト教民主党を抑えて第一党もしくは第二党に躍進しつつある。またかつて先進福祉国家としてその名をはせた北欧諸国にはこんにち、例外なく極右ポピュリスト政党が存在し、同じく既成政党の一角を抑えて第二党の地位をうかがって

いる。

一方、目を東欧諸国に転じれば、北バルカン・ルートを通じて大量のシリア難民がヨーロッパに流れ込んだ2015年以降、反EU・反移民を公約に掲げるポピュリスト政党が率いる政権が次々と誕生しており、直近の国政選挙でみたそれらの政党の得票率はポーランドで45.6%、ハンガリーに至っては68.6%にも達している。そして、このようなポピュリズム台頭の嵐は、2016年6月のEU離脱をめぐるイギリスの国民投票と、同じく2016年11月のアメリカ大統領選挙におけるドナルド・トランプの勝利によって頂点を迎えたことはわれわれの記憶にも新しい。

本稿の主題は、ポピュリズム政党のこのような躍進の背後にいかなる要因があるのかを、マクロ・データのみならず、最新のミクロ・データを使って明らかにすることにある。以下では、「ポピュリズム」とは何かをまず定義した

うえて、ポピュリスト政党の台頭がいつどのようにして始まり、こんにちどの程度まで広がっているのかを統計データを使って確認したい。次いで、ポピュリスト政党の台頭の背後にいかなる要因があるのかをマクロ・データによって明らかにした後、ポピュリスト政党を支持する人々が誰かをミクロ・データを使って解明する。

なお、ヨーロッパ諸国では、右翼ポピュリスト政党の勢力拡大に呼応するかのようになり、既成政党もまたその戦略を大きく変えつつある。ここではオランダの事例を参考に、EU戦略と移民政策において既成政党の政策スタンスがいかに変化しつつあるのかを明らかにしたい。

また、ヨーロッパの一部の国では、右翼ポピュリスト政党に対抗して左翼ポピュリスト政党が復活する動きがみとめられる。たとえば、イタリアの5つ星運動、ギリシャのスイリザ、スペインのポデモスといった政党がそれである。ヨーロッパの識者のなかにはそのような動きをひとつの希望としてみる見方もあるが、ここでは左翼ポピュリズムが政策のひとつとして掲げる「ベーシックインカム」を題材として取り上げ、そのような政策の実現可能性を批判的に検証したい。

1. ポピュリズムとは？

(1) ポピュリズムの定義

わが国では、ポピュリズムという用語はしばしば「大衆迎合政治」あるいは「衆愚政治」として翻訳されてきた。そこには当然、国民の感情に直接的に訴える政治スタイルをとるポピュリズムが結果的に無責任な政治につながり、最終的には民主主義の脅威となる、という批判的な意味が込められている。

一方、ポピュリズム研究の第一人者とされるミュデは、「社会の構成員を『善良な人民』と『不正を働くエリート』とに二分し、政治が人民の一般意思を代表すべきだとする政治イデオロギー」としてポピュリズムを定義している。だが、ここでいう「人民」とは何か、また「エリート」とは何か、さらには「一般意思」とは何か、ポピュリズムはそれらの質問に明確に答えようとはしない。また、ミュデが目にするのはポピュリズムの「イデオロギーとしての薄さ」である。ポピュリズムは、リベラリズムや社会主義のような明確なかたちをもった政治イデオロギーとは異なり、状況次第で他の政治イデオロギーとも簡単に融合してしまうところに特徴がある。しかし、この特徴こそが、ポピュリズムを民主主義の脅威にもすれば、逆に民主主義の促進剤にもする、とミュデは述べている(Mudde=Kaltwasser, 2017)。

ポピュリズムの第三の定義として、その支持者が誰であるかに注目する研究がある。たとえば、キツェルトはこんにちヨーロッパ諸国で台頭するポピュリスト政党を「新極右主義」と名付け、その支持者の違いから、戦前のファシズムとそれを区別している。すなわち、戦前のファシズムの支持者が中小零細自営業者や農民、またホワイトカラー労働者であったのに対し、こんにちの「新極右主義者」の支持者の多くが社会変動に取り残されたブルーカラー労働者である点に注目する。ブルーカラー労働者が「新極右政党」の支持者となった背景には、これまで彼らの支持政党であった社会民主党が労働者階級の高学歴化・ホワイトカラー化・女性化に伴いその政党綱領を大きく変え、もはや彼らの利害を代表しなくなったことがある。すなわち、社会民主主義の変質と裏腹に、こんにちの「新極右主義」の躍進がある、というのがキツェルトが下した診断である(Kitschelt,

1995)。

最後に、もっとも包括的な定義として、政治学者シュミッターの定義を紹介しておきたい。

シュミッターによれば、「ポピュリズムとは、既存の政治制度の中に具体化された対立軸を越えて、あるいはそれを無視する形で大衆の支持を得ようとするひとつの政治運動である。またそれは、これまで不可能と考えられ、回避されてきた政治課題を一挙に解決できるとあえて主張する政治リーダーのもとで展開される政治運動である。」(Schmitter, 2006) この定義には次のような含意がある。

- ① 政治的対立軸は政体ごとに異なるゆえに、ポピュリズムの社会的背景ならびに政治プログラムはそれぞれ異なる。したがって、それを一律の政治現象として捉えてはならない。
- ② またポピュリズムの政治リーダーの人格に焦点があるのだから、この運動の成否はそのリーダーの資質にかかっている。その意味で、ポピュリズムはカリスマとそれが果たした歴史的役割と深い関わりをもつ。
- ③ ポピュリズムの戦略はこれまで無視され、結び付けられなかった問題をあえて結び付けようとするところにあるため、その政治イデオロギーには一貫性がなく、あるいは不明瞭なものとなる。したがって、既存の政党と比べると、彼らの公約は非現実的であり、予見性に欠け、しばしば予期せぬ結果をもたらすことになる。
- ④ 最後に、ここでの関心は現代ヨーロッパにおけるポピュリズムにあるため、政治レジームは少なくとも自由民主主義的であることを前提とする。このことから、ポピュリズム政治運動もまた、競争的な政党政治を通じて公正な選挙で勝利することをめざすことが前提条件となる。

シュミッターはポピュリズム運動をこのよう

に定義したうえで、それが現代政治にもたらす功罪を挙げている。その詳細は省くが、ポピュリスト・リーダーが政治ルールを変え、軍隊や警察からの支援を得ることで平和裏な政権交代が難しくなると、そのような功罪のバランス・シートすべてが無効になると警告している。

(2) 政治的対立軸の変化

ところで、以上に示したポピュリズムの定義の中でしばしば言及される政治的対立軸の変化とは何か？この点を明らかにするために、Chapel Hill Expert Survey 2014データ(以下、CHES2014と略す)を使った主成分分析を行った。この調査は、ノースキャロライナ大学のチャペルヒル欧州研究センターが1999年から始めた調査であり、ヨーロッパの31カ国268政党の政策スタンスを各国の複数の政治学者に評価してもらった結果をそれぞれの政党ごとに平均値としてまとめたものである。

まず、ここでは右翼・左翼の対立軸を示す変数として、「社会支出および税」「規制緩和」「再分配」「市場への国家介入」の4変数を取り上げたい。これらの変数はいずれも0点から10点までの範囲で評価され、高得点になるほど右翼、低得点になるほど左翼に近づくことみなされる。

また、ポピュリズムの程度を測るために、「ナショナリズム」「政教分離」「市民的自由と法と秩序」「社会的生活スタイル」「リベラリズムと権威主義」「アンチ・エリート主義」「政治的不正の防止」の7変数を加えている。ここでも各指標は0点から10点までの範囲で評価され、それぞれの得点が高い政党ほどポピュリズムに近いと判断される。

表1
回転後の成分行列

	成分		
	1	2	3
nationalism	.876	.087	.088
religious_principle	.858	.260	-.040
sociallifestyle	.947	.135	.124
civlib_laworder	.908	.253	-.014
galtan	.970	.136	.022
spendvtax	.256	.935	-.048
deregulation	.101	.966	-.112
redistribution	.282	.923	-.116
econ_interven	.162	.963	-.038
antielite_salience	.201	-.376	.778
corrupt_salience	-.040	.054	.926

因子抽出法: 主成分分析

回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法

説明された分散の合計

成分	初期の固有値			抽出後の負荷量平方和			回転後の負荷量平方和	
	合計	分散の %	累積 %	合計	分散の %	累積 %	合計	分散の %
1	5.638	51.259	51.259	5.638	51.259	51.259	4.389	39.900
2	2.882	26.198	77.457	2.882	26.198	77.457	3.907	35.517
3	1.294	11.762	89.219	1.294	11.762	89.219	1.518	13.803
4	.476	4.326	93.546					
5	.240	2.180	95.725					
6	.175	1.593	97.318					
7	.089	.805	98.123					
8	.079	.722	98.845					
9	.061	.554	99.400					
10	.041	.374	99.773					
11	.025	.227	100.000					

説明された分散の合計

成分	回転後の負.. 累積 %
1	39.900
2	75.417
3	89.219
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	

因子抽出法: 主成分分析

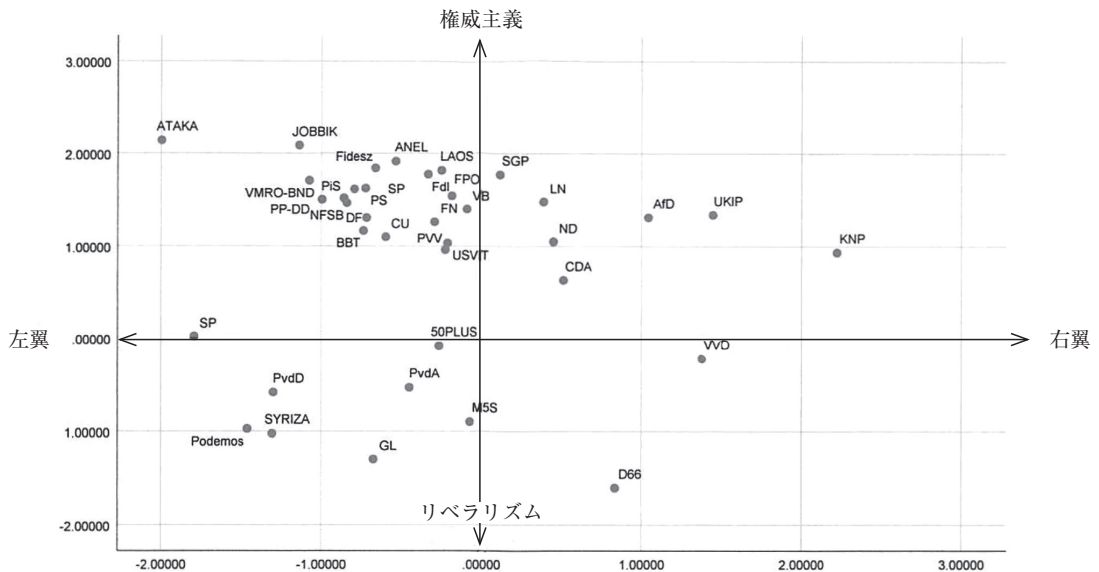
表1は、以上の11変数を使って行った主成分分析の結果である。バリマックス回転を行った結果、次の3つの主成分に収束した。まず、第一主成分は、「ナショナリズム」「政教分離」「市民的自由と法と秩序」「社会的生活スタイル」「リベラリズムと権威主義」の5変数からなる対立軸である。また第二主成分は、右翼・左翼の経済的な政策スタンスの違いを表す対立軸である。そして、第三主成分は、「アンチ・エリート主義」と「政治的不正の防止」の2変数からなる対立軸である。

ここでは、キッチェルトやのちに述べるイングレハートの考えに従い、第一主成分を「リベラリズム」対「権威主義」の文化的な対立軸とし、またミュデのポピュリズムの定義に従い、第三成分を「エリート主義」対「反エリート主義」の対立軸とみなしたい。

いまこれらの主成分の因子得点を政党ごとに

平面にプロットすると、図1から図3に示した結果が得られる。ここではとくに図1と図2に注目されたい。一般にポピュリズム政党と通称されてきたものは、大きく分けて「右翼ポピュリズム政党」と「左翼ポピュリズム政党」の2つに分類できることがわかる。だが、「リベラリズム」対「権威主義」の文化的な対立軸を使ってポピュリズムを定義した場合、5つ星運動、スイリザ、ポデモスのような「左翼ポピュリスト政党」をもはやポピュリスト政党とよぶことは難しい。また「エリート主義」対「反エリート主義」の対立軸を使ってポピュリズムを定義すると、これらの「左翼ポピュリスト政党」は文字通りポピュリスト政党に分類されるが、他方でデンマーク国民党（DF）やハンガリーの政権政党であるフィデス（Fidesz）のような、ヨーロッパを代表する重要なポピュリズム政党がそこから抜け落ちることになる。

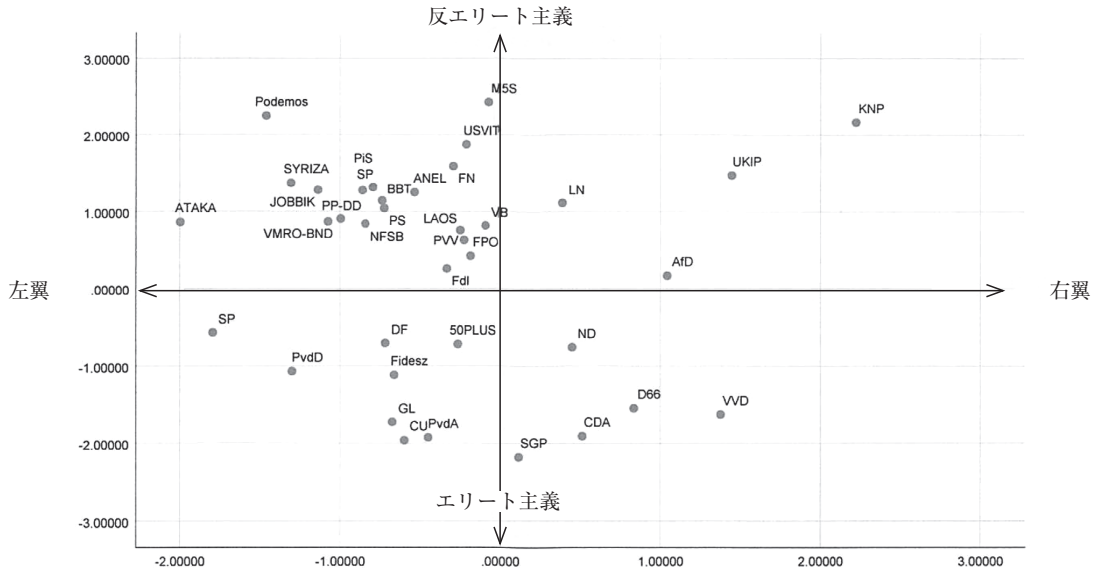
図1



資料出所：CHES2014

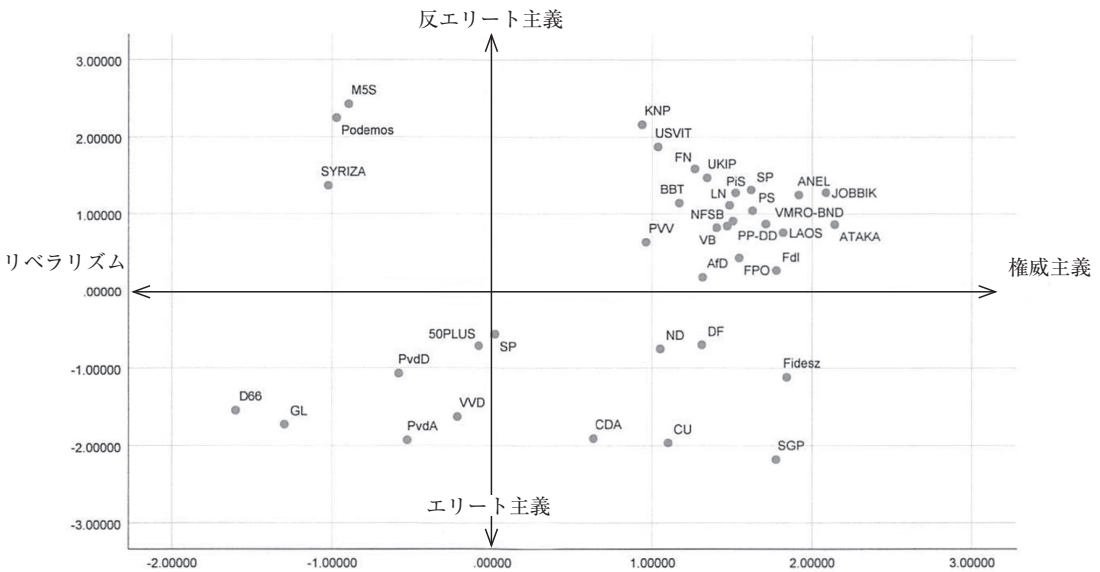
注：参考までにオランダの主要政党の因子スコアもプロットしてある

図2



資料出所：CHES2014

図3



資料出所：CHES2014

2. 一部の国からほぼすべての国へ

このようにポピュリスト政党の位置取りを正

確に確定することは難しいが、次に暫定的な定義に従って、「左翼ポピュリスト政党」と「右翼ポピュリスト政党」がそれぞれどのようにして

その勢力を伸ばしてきたのかをみておきたい。ここで使うデータは、TIMBRO Authoritarian Populism Index (TAP) 2019である。なお、ここにいう「権威主義的ポピュリズム」(Authoritarian Populism)とは、①「人民」対「エリート」の二項対立、②少数者への配慮を欠いた多数決主義の重視、③強い国家権力の希求、の3条件を満たしたポピュリズムを意味する。そして、この中には当然、「左翼ポピュリズム」と「右翼ポピュリズム」の2つが含まれる。またこれらの「権威主義的ポピュリズム」とは別に、民主主義を否定する「極右」「極左」に関するデータもこのデータ・ファイルのなかには収められている。

まず、国政選挙ごとの得票率からみたポピュリスト政党の勢力拡大の様子をみてみたい。それを示したのが、図4である。ここでは国ごとのポピュリスト政党の得票率を単純平均している。これをみると、1980年以降、「右翼ポピュリスト政党」がほぼ一貫してその勢力を伸ばし

てきたのに対し、「左翼ポピュリスト政党」は1980年以降約20年間にわたってその勢いが低下する傾向にあったことがわかる。だが、2000年代に入ると、その勢いはほぼ横ばいに推移し、2010年以降再び勢力を回復する兆しをみせている。すなわち、この時期は2008年のリーマンショックに端を発するユーロ危機が欧州諸国を襲った時期と重なり、とくに巨額の財政赤字を抱え、EUから強硬な緊縮政策を求められた国々において「左翼ポピュリズム」が復活したとみることができよう。

図5は、欧州33カ国の国会における総勢784議席のうち、何議席がポピュリスト政党によって占有されているのかをみたものである。2018年時点で1768議席を左右両陣営を含めた「権威主義的ポピュリスト政党」が占め、また173議席を民主主義を否定する「極右」「極左」の政党が占有している。驚くべきことは、この両者を合わせた議席占有率が1980年代までわずか5%にすぎなかったのに対し、いまや24.7%にも

図4

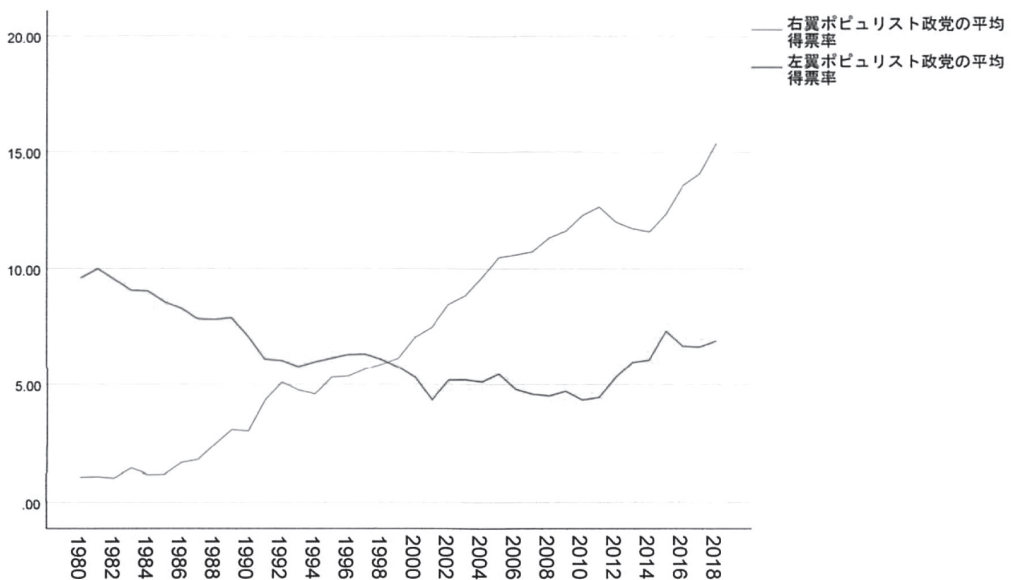
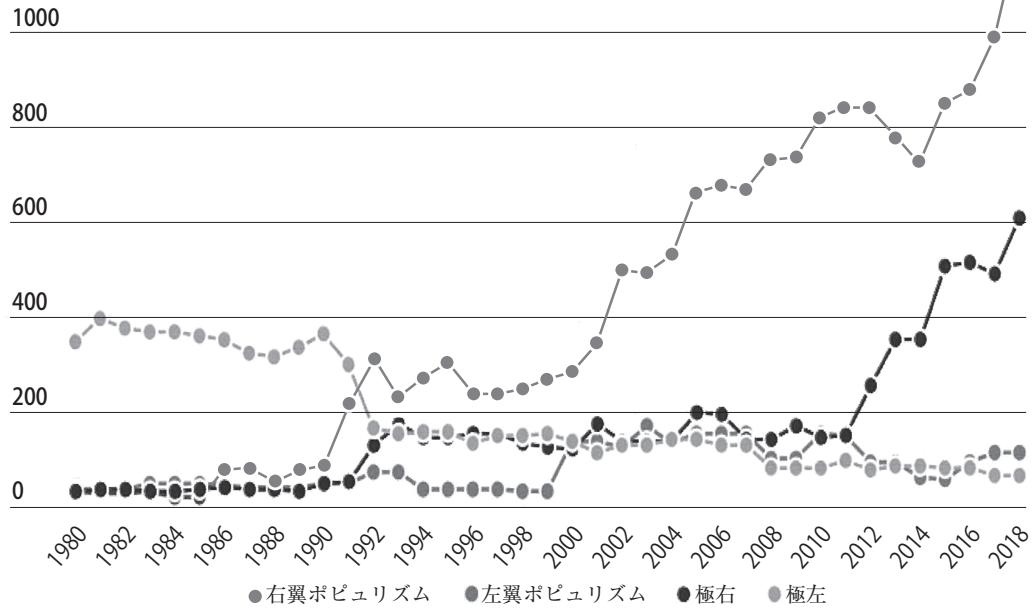


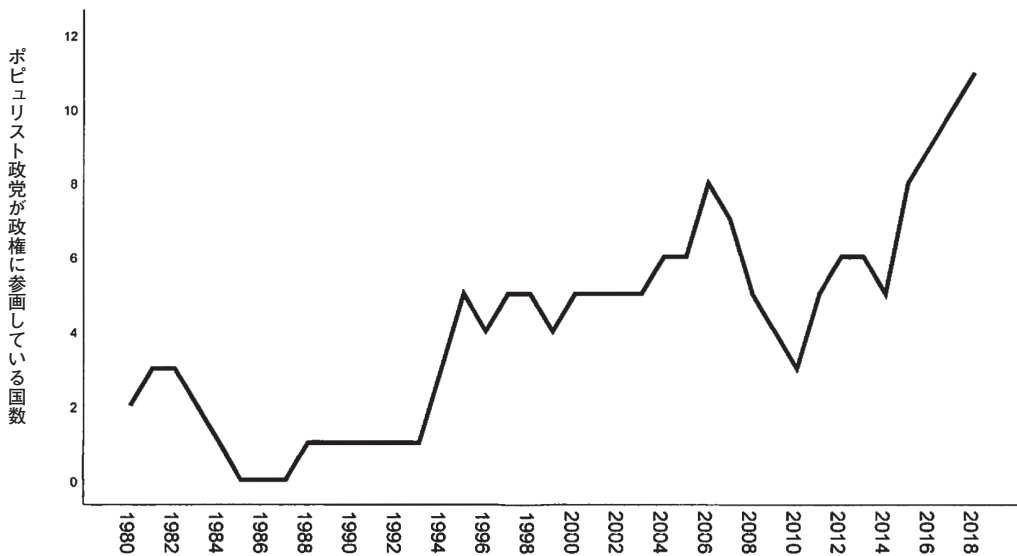
図5

国会における議席数



資料出所：TIMBRO Authoritarian Populism Index (TAP) 2019

図6



資料出所：TIMBRO Authoritarian Populism Index (TAP) 2019

達していることである。

最後に、ポピュリスト政党はどの程度政権に参加しているのだろうか？図6は、ポピュリス

ト政党が政権に参加する国の数を1980年から現在に至るまで辿ったグラフである。これをみると、多少の蛇行を繰り返しつつもその数が確実に

に増える傾向にあることがわかる。2018年現在、ポピュリスト政党が政権に参画している国は、次の11カ国である。すなわち、ハンガリー、ポーランド、ギリシャ、ノルウェー、フィンランド、ラトビア、ブルガリア、スロバキア、スイス、オーストリア、イタリアがそれぞれである。ここではとくに東欧、南欧の国々においてポピュリスト政権が誕生している様子が見えてくる。とはいえ、欧州33カ国のうち実に1/3の国でポピュリスト政権がすでに誕生していることを考えると、欧州全土にポピュリズム政権が誕生するのもそれほど遠いことではないとみることもできよう。

3. ポピュリズムを支持している人は誰か？

ポピュリズム政党の得票率を左右する要因は何か？ またポピュリズム政党を支持している人は誰か？ いよいよ本稿の主題に入っていきたい。

これらの点をめぐっては、すでにまとまった数の先行実証研究が存在し、そこで示されたいくつかの仮説と実証研究の成果を整理することからはじめたい。

(1) 先行研究

ポピュリスト政党の台頭の背景を説明するもっとも有力な仮説は、1970年代中盤から先進工業国で始まった「静かなる革命」に対する反動としてそれを捉える見方である。ここにいう「静かなる革命」とは、政治学者のイングレハートが1970年代に発見した政治現象であるが、有権者の多くが政党を選ぶうえで、経済成長や雇用拡大といった「物質的価値」よりもむしろ、環境改善や女性の地位向上といった「脱物質的価値」を重視する政治選好の変化を意味し

ている。イングレハートによれば、このような価値シフトが起きた背景には、戦後の高度経済成長の時代を経て、われわれの生活欲求水準が「衣食足りて礼節を知る」段階に向上したことがある (Inglehart, 1977)。だが、このような社会変化についていけない一部の高齢者ならびに低学歴の白人男性がそれに抵抗して伝統主義や権威主義を掲げるポピュリスト政党を支持している、というのがイングレハートの下した結論である (Inglehart=Norris, 2016)。

この議論は、先に紹介したキツェルトの議論とも重なる。すなわち、労働者階級の高学歴化・ホワイトカラー化・女性化に伴い、政治選好が従来の左右の経済的対立軸から、「権威主義」対「コスモポリタン・リベラリズム」の対立軸へと傾斜し、社会民主党がこの変化を敏感に捉えてその政策綱領を大きく変えようと、かつての重厚長大産業で働いてきた男性中心の低学歴の中高年ブルーカラー労働者は支持政党を失い、しばしば伝統主義や権威主義を掲げるポピュリズム政党に傾倒しやすい、という (Kitschelt, 1994, Kitschelt, 1995)。

ただし、これらの見解はヨーロッパにおいてポピュリズム政党の台頭が2010年代に入って急速に進んだことをうまく説明できない。また、「静かなる革命」は1970年代の中盤以降に始まった現象であり、この革命の担い手が主にベビーブーム世代 (1946-1964年生まれ) であり、その一部がすでに70台に達している現実を無視している。すなわち、ベビーブーム世代は決して「物質的価値」に囚われているわけではなく、むしろそれに続く X 世代 (1965-1979年生まれ)、ミレニアル世代 (1980-1996年生まれ) 以上に革新的である可能性が高い。したがって、かれらをヨーロッパを席卷するポピュリズムの担い手とみなすことには無理があるといわざるを得ない。

そこで、これに代わる第二の仮説として、グローバル化による経済不安説が登場することとなる。この説を唱える者は主に経済学者であるが、たとえば、コラントネ＝スタニグは、1988年から2007年までの期間に行われた、西欧15カ国の76の国政選挙結果を分析して、中国からの輸入攻勢によって大きな打撃を受けた地域ほど、ポピュリスト政党への支持率が高いことを、地域データと個人データをそれぞれ使って突き止めている（Colantone＝Stanig, 2018a）。また、かれらは同じ手法で、2016年に行われたイギリスのEU離脱国民投票の結果を分析し、過去30年にわたる中国からの輸入攻勢によって大きな経済ショックを受けた地域、またそこに暮らす人々ほど、EU離脱を支持した割合が高かったことを明らかにしている（Colantone＝Stanig, 2018b）。

イングレハートらの先の研究を直接批判し、経済不安説の有効性を唱える研究もある。ガイソ他の研究がそれである（Guiso et al., 2017）。ポピュリスト政党への投票を占う要因として、文化変数が経済変数を上回る影響力をもつとするイングレハートらの研究は、投票回避行動に経済ショックが与える影響を無視している点で問題がある。もしこの影響を考慮に入れば、経済変数は政治不信や移民への態度にも影響を与えている可能性があり、間接的にポピュリスト政党への支持にも影響を与える、という。

実際かれらは、①投票行動と②ポピュリスト政党への投票という2段階に分けて、経済変数の影響力を推計した。それによれば、「過去5年の失業経験」「所得の低下」「製造業のブルーカラー労働者」といった経済不安要因が投票率にマイナスに作用するとともに、ポピュリスト政党への投票も高めることを実証している。

ガイソらはこの研究をさらに進めて、2008年から2011年にかけて起きたリーマンショック

と、それに続く国債危機（いわゆるユーロ危機）がポピュリスト政党の台頭にいかなる影響を与えたのかを調べている。かれらによれば、その影響は経済ショックに直面した際に取りうる選択肢に大きな制約があったユーロ圏の国でとくに深刻であり、ポピュリスト政党がそれらの国で大きな成功を収めた理由もそこにある、と結論付けている（Guiso et al., 2018）。

「静かなる革命」への反動説、グローバル化による経済不安説に加えて、第三の仮説として、「人生満足度」「他人への信頼度」といった主観的な指標がポピュリスト政党への投票行動に大きな影響を与えていることを示す社会学的研究がある。たとえば、アルガン他は、2017年のフランス大統領選におけるマクロン候補とルペン候補との対決が、2012年の大統領選まで続いた「階級政治」の終焉を意味するとともに、「人生満足度」と「他人への信頼度」が高いマクロン候補の支持者と、それらがいずれも低いルペン候補の支持者との対決であったことを明らかにしている。アルガンらによれば、「人生満足度」が低く、「他人への信頼度」が低い有権者は、ポピュリスト政党に投票する傾向があり、社会契約にも懐疑的で、ルペン候補の支持者が示すように、国家による再分配政策は問題を解決するとは考えていない。このことから、フランスの階級社会は徐々に壊れつつあり、マス社会へと向かっているとする（Algan et al., 2018）。

(2) マクロ・データによる分析

以上のように、ポピュリズム台頭の背景を説明する仮説として、①「静かなる革命」への反動説、②グローバル化による経済不安説、③「人生満足度」「他人への信頼度」の低下を強調する社会学的仮説の3つがある。

そこで次に、国別のマクロ・データを使って、ポピュリズム政党の得票率が高い国とそうでない国との差がなぜ生じるのか、その原因を解明したい。次いで、European Social Surveyの2016年データと2018年データを利用して、ポピュリスト政党を支持する人々は誰かを各国の政党別に明らかにする。

国別のポピュリスト政党の得票率は、先ほど

のTIMBRO Authoritarian Index 2019から得られる。そして、以下に述べる変数とそれらとの相関係数を調べることで、ポピュリズム台頭の背景を探りたい。表2がその結果である。なお、ここでは、「右翼ポピュリスト政党の得票率」と「左翼ポピュリスト政党の得票率」とにそれぞれ分けて分析している。

表2-①

		ポピュリスト政 党得票率（左派 を含む） （2018）	左派ポピュリス ト政党の得票率 （2018）	右派ポピュリス ト政党の得票率 （2018）
ポピュリスト政党得票率 （左派を含む）（2018）	Pearson の相関係数	1	.464*	.747**
	有意確率（両側）		.017	.000
	度数	26	26	26
左派ポピュリスト政党の得 票率(2018)	Pearson の相関係数	.464*	1	-.242
	有意確率（両側）	.017		.234
	度数	26	26	26
右派ポピュリスト政党の得 票率（2018）	Pearson の相関係数	.747**	-.242	1
	有意確率（両側）	.000	.234	
	度数	26	26	26
ヨーロッパ以外からの移民 は絶対反対（2016）	Pearson の相関係数	.521*	-.142	.604**
	有意確率（両側）	.015	.538	.004
	度数	21	21	21
移民人口比率（2014）第一 世代	Pearson の相関係数	-.367	-.013	-.386
	有意確率（両側）	.093	.954	.076
	度数	22	22	22
移民人口比率（2014）第二 世代	Pearson の相関係数	-.484*	-.366	-.240
	有意確率（両側）	.022	.094	.281
	度数	22	22	22
移民人口比率（2014）合計	Pearson の相関係数	-.473*	-.167	-.381
	有意確率（両側）	.026	.458	.080
	度数	22	22	22
中所得層の割合（2016）	Pearson の相関係数	.081	-.297	.311
	有意確率（両側）	.694	.141	.122
	度数	26	26	26

*有意水準5% **有意水準1%

表2-② (続)

		ポピュリスト政 党得票率 (左派 を含む) (2018)	左派ポピュリス ト政党の得票率 (2018)	右派ポピュリス ト政党の得票率 (2018)
GINI (2013)	Pearson の相関係数	.062	.417*	-.242
	有意確率 (両側)	.780	.048	.267
	度数	23	23	23
in work poverty rate(2017)	Pearson の相関係数	.354	.485*	.025
	有意確率 (両側)	.076	.012	.904
	度数	26	26	26
中流階級意識 (2017)	Pearson の相関係数	.024	-.183	.161
	有意確率 (両側)	.912	.392	.453
	度数	24	24	24
EUを否定的に捉える人々の 割合 (2018)	Pearson の相関係数	.355	.514*	.000
	有意確率 (両側)	.097	.012	.999
	度数	23	23	23
GDP対比の政府累積債務 (2016)	Pearson の相関係数	.415*	.769**	-.126
	有意確率 (両側)	.044	.000	.558
	度数	24	24	24
CSRの平均実施状況 (2013-2017)	Pearson の相関係数	-.233	.064	-.270
	有意確率 (両側)	.296	.777	.225
	度数	22	22	22
多年度評価からみたCSRの 平均実施状況 (2011- 2017)	Pearson の相関係数	-.099	.008	-.104
	有意確率 (両側)	.660	.972	.646
	度数	22	22	22
ユーロ危機ピーク時の失業 率 (2012)	Pearson の相関係数	.220	.569**	-.187
	有意確率 (両側)	.313	.005	.393
	度数	23	23	23
ヨーロッパ難民危機時の失 業率 (2015)	Pearson の相関係数	.298	.750**	-.239
	有意確率 (両側)	.168	.000	.273
	度数	23	23	23

資料出所：ポピュリスト政党の得票率はTIMBRO Authoritarian Index 2019 から、「ヨーロッパ以外からの移民は絶対反対」はESS2016から、移民人口比率、in work poverty rate、GDP対比の政府累積債務比率、失業率はEurostat から、中所得層の割合、中流階級意識はOECD(2019)から、GINI係数はLIS Inequality Key Figuresから、CSR関連データはEfstathiou=Wolff(2018)から、「EUを否定的に捉える人々の割合」はStandard Eurobarometer90からそれぞれとっている。

一般に移民や難民申請者が急増したことがポピュリズム台頭の原因といわれているが、「ヨ

ーロッパ以外からの移民には絶対反対」とする意見の割合、また「移民人口比率」とポピュリ

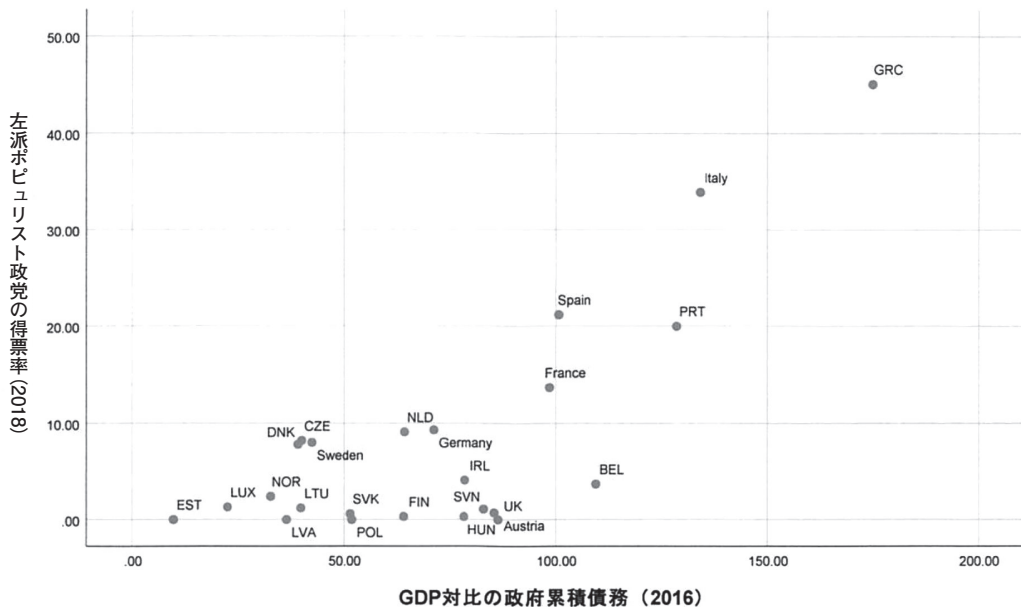
スト政党の得票率との間には、統計的に有意なプラスの相関関係はみとめられない。むしろ逆に、そこには負の相関関係がある。すなわち、すでに移民が定住し、定着している国では、そのことが直ちにポピュリズムの台頭を惹き起こすわけではない。

一方、グローバル化による経済不安がポピュリズムの台頭の原因であるという先の仮説を検証するために、「中所得層（メディアン所得の75%から200%）の割合（2016）」「可処分所得のジニ係数（2013）」「働く貧困層の割合（2017）」「中流階級意識（2017）」とポピュリスト政党の得票率（2018）との相関をとった。これをみると、「左翼ポピュリスト政党の得票率（2018）」にかぎってこれらの変数のいくつかと統計的に有意な相関関係がみとめられる。すなわち、不平等の尺度である「可処分所得のジニ係数」や「働く貧困層の割合」が大きい国ほど、「左翼ポピュリスト政党の得票率」が高く

なる傾向がある。だが、そのような傾向は「右翼ポピュリスト政党の得票率」についてはみとめられない。

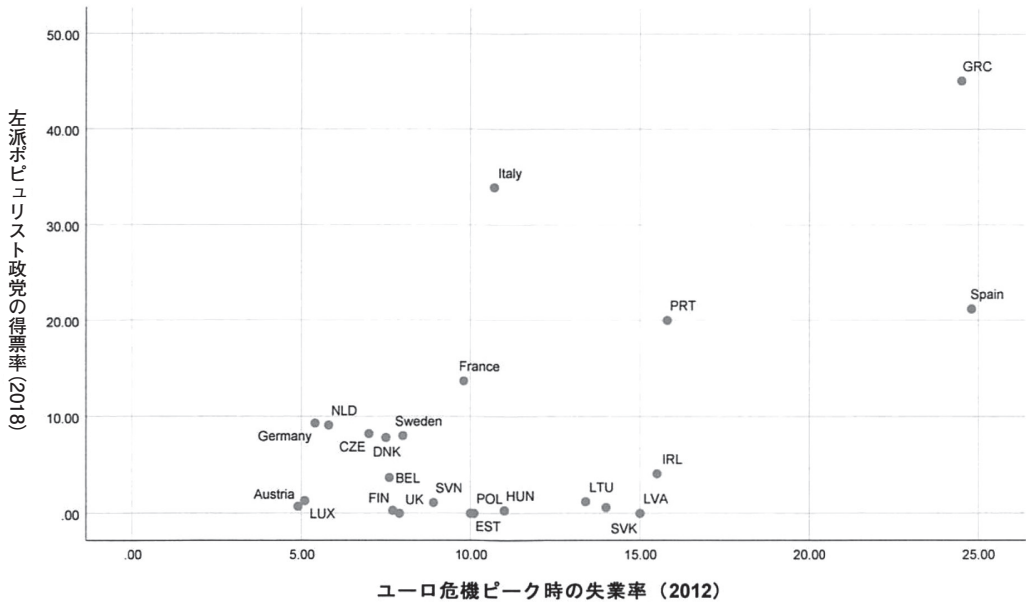
ところで、ヨーロッパ諸国では、経済のグローバル化はEU統合の「拡大」「深化」と並行して進んできた。そして、その過程で生じた2009年の「ユーロ危機」とそこから抜け出すために断行された「緊縮政策」がEU加盟国に与えた影響ははかり知れない。そこで、その影響をみるために、「EUを否定的に捉える人々の割合（2018）」「GDP対比の政府累積債務（2016）」「CSRの平均実施状況（2013-2017）」「多年度評価からみたCSRの平均実施状況（2011-2017）」「ユーロ危機ピーク時の失業率（2012）」「ヨーロッパ難民危機時の失業率（2015）」と、ポピュリスト政党の得票率との相関を調べてみた。なお、ここでいうCSR（Country Specific Recommendation）とは、ユーロ危機から脱却するために、ユーロ圏の国々がEUから求めら

図7



資料出所：TIMBRO Authoritarian Index 2019およびEurostat

図8



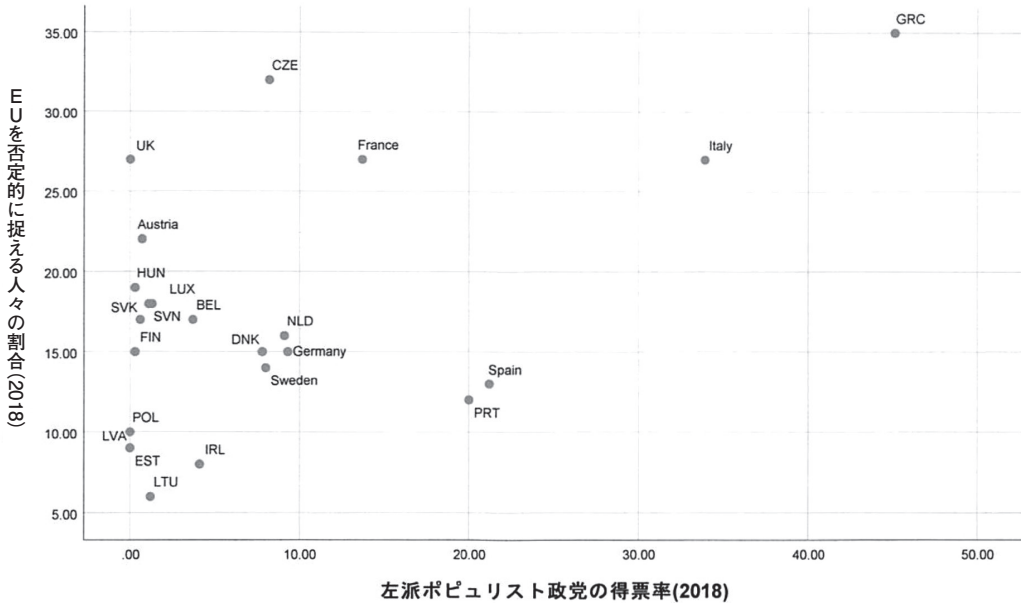
資料出所：TIMBRO Authoritarian Index 2019およびEurostat

図9



資料出所：TIMBRO Authoritarian Index 2019およびEurostat

図10



資料出所：TIMBRO Authoritarian Index 2019およびStandard Eurobarometer 90 (2018)

れた構造改革のリストであり、平均実施状況とはそれらがどの程度誠実に履行されたのかをみたものである。

ここでも「左翼ポピュリスト政党の得票率(2018)」にかぎって、これらの指標のいくつかと統計的に有意な相関関係がみとめられる。すなわち、「GDP対比の政府累積債務(2016)」が大きかった国(とりわけ、ギリシャ、イタリア、スペイン、ポルトガル)で「左翼ポピュリスト政党の得票率(2018)」が大きく伸びていることがわかる。また、それらの国は、「ユーロ危機ピーク時の失業率(2012)」「ヨーロッパ難民危機時の失業率(2015)」も高く、EUから厳しい「緊縮政策」を求められたことがわかる。だが、「CSRの平均実施状況」をみるといずれもそれほど高くないことから、左翼ポピュリスト政党が台頭する中で、EUから求められた構造改革を誠実に履行することが難しくなっ

たと推察されよう¹。そして、このことを裏書きするように、「左翼ポピュリスト政党の得票率(2018)」が高い国では、「EUを否定的に捉える人々の割合(2018)」が高まる傾向がある。

(3) ミクロ・データによる分析

マクロ・データでみるかぎり、グローバル化による経済不安説は、近年における左翼ポピュリズムの台頭を説明するうえで有効なことがわかった。だが、右翼ポピュリズムの台頭をマクロ・データだけで説明することは難しい。そこで次に、多くの先行研究が利用しているEuropean Social Surveyの最新個票データ(以下、ESS2016およびESS2018と略す)を使って、国別のポピュリスト政党に誰が投票しているのかを明らかにしたい。

ここで取り上げる各国のポピュリスト政党

表3

ESS2016年データで取り上げた政党	ESS2018年データで取り上げた政党
オーストリア	オーストリア
オーストリア国民党(ÖVP)	オーストリア国民党(ÖVP)
オーストリア自由党(FPÖ)	オーストリア自由党(FPÖ)
ベルギー	ベルギー
フランダースのための利益(VB)	フランダースのための利益(VB)
スイス	スイス
スイス国民党	スイス国民党
ドイツ	ドイツ
ドイツのための選択肢(AfD)	ドイツのための選択肢(AfD)
フィンランド	フィンランド
真正フィン人党	真正フィン人党
フランス	フランス
国民戦線(FN)	国民戦線(FN)
イギリス	イギリス
イギリス独立党(UKIP)	イギリス独立党(UKIP)
イタリア	イタリア
5つ星運動(M5S)	5つ星運動(M5S)
北部同盟(LN)	北部同盟(LN)
オランダ	オランダ
自由党(PVV)	自由党(PVV)
スウェーデン	ノルウェー
スウェーデン民主党(SD)	赤色党(Rødt)
スペイン	進歩党(FrP)
ポデモス(Podemos)	ハンガリー
ハンガリー	フィデス(Fidesz)
フィデス(Fidesz)	ヨビック(Jobbik)
ヨビック(Jobbik)	ポーランド
ポーランド	法と正義(PiS)
法と正義(PiS)	

資料出所：ESS2016およびESS2018

は、表3に示したとおりである。

European Social Surveyは直近の選挙で個人がどの政党に投票したのかを明らかにしているため、当該のポピュリスト政党に投票したのか否かを被説明変数とし、次の5段階を踏んで二項ロジスティック回帰分析を実施した。まず第一段階では、「年齢」(スケール)、「性別」(ダミー)、「就学年数」(スケール)、「地域」(ダミー)をコントロール変数とし、推計を行った。第二段階では、経済不安説を検証するために、これらのコントロール変数に「過去3か月以上の失業経験」(ダミー)「期限付き雇用」(ダミー)「所得階層」(3段階のスケール)の3変数を加えて推計している。また第三段階では、上

述のイングレハートらの研究を踏襲して、コントロール変数に「国会への不信」(ダミー)「欧州議会への不信」(ダミー)「極右思想」(ダミー)「反移民感情」(ダミー)の4変数を加えて推計している。さらに第四段階では、先の社会学的仮説を検証するために、コントロール変数に「人生満足度」(スケール)「他者への信頼度」(スケール)「結社への加入」(ダミー)の3変数を加えて推計した。そして最後に、以上のすべての変数を一括して加えた結合モデルを推計している。なお、最近発表されたばかりのESS2018データでは、「所得階層」について十分なサンプル数が確保できないので、分析から省いた。また、ESS2018データでは「結社への

表4-①

国名：オーストリア 政党名：ÖVP データ：ESS2016 分析方法：二項ロジット

数字は Exp(B)、***1%、**5%、*10%

	コントロール変数	コントロール変数 +経済変数	コントロール変数 +政治変数	コントロール変数 +社会変数	結合
年齢	1.019***	1.021***	1.021***	1.019***	1.020***
性別	1.013	1.144	1.043	0.999	1.175
就学年数	1.014	1.019	1.009	0.998	1.000
地域	***	***	**	***	***
期限付雇用		1.036			1.107
失業経験		0.661**			0.695*
所得階層		1.509***			1.449***
国会への不信			0.255**		0.219**
欧州議会への不信			0.566**		0.686
極右思想			0.447		0.308
反移民感情			0.944		1.017
他人への信頼度				1.012	0.963
人生満足度				1.091**	1.046
結社への加入				1.390**	1.335
NR ²	0.052	0.090	0.076	0.063	0.114
N	1342	982	1251	1339	926

資料出所：ESS2016

表4-②

国名：オーストリア 政党名：FPÖ データ：ESS2016 分析方法：二項ロジット

数字は Exp(B)、***1%、**5%、*10%

	コントロール変数	コントロール変数 +経済変数	コントロール変数 +政治変数	コントロール変数 +社会変数	結合
年齢	0.987***	0.985***	0.981***	0.985***	0.976***
性別	1.350**	1.163	1.260	1.410**	1.215
就学年数	0.869***	0.866***	0.873***	0.906***	0.891***
地域	***	***	***	***	***
期限付雇用		0.802			0.836
失業経験		1.747***			1.590**
所得階層		0.882			0.875
国会への不信			3.052***		2.627**
欧州議会への不信			3.049***		2.048**
極右思想			5.695***		9.330***
反移民感情			4.374***		4.629***
他人への信頼度				0.774***	0.800***
人生満足度				0.948	0.921
結社への加入				0.575**	0.676
NR ²	0.084	0.108	0.260	0.167	0.310
N	1342	982	1251	1339	926

表4-③

国名：ベルギー 政党名：Vlaams Belang データ：ESS2016 分析方法：二項ロジット

数字は Exp(B)、***1%、**5%、*10%

	コントロール変数	コントロール変数 +経済変数	コントロール変数 +政治変数	コントロール変数 +社会変数	結合
年齢	0.972**	0.974	0.969**	0.975**	0.975
性別	1.116	0.958	1.024	1.152	0.945
就学年数	0.783***	0.782***	0.797***	0.815***	0.792***
地域					
期限付雇用		1.271			2.006
失業経験		0.857			0.638
所得階層		0.928			1.003
国会への不信			1.565		0.971
欧州議会への不信			2.507		1.944
極右思想			6.264***		5.141*
反移民感情			5.052**		4.790*
他人への信頼度				0.808**	0.908
人生満足度				0.875	0.835
結社への加入				0.797	0.650
NR ²	0.157	0.165	0.245	0.193	0.259
N	1267	1027	1233	1266	1005

表4-④

国名：スイス 政党名：Swiss People's Party データ：ESS2016 分析方法：二項ロジット

数字は Exp(B)、***1%、**5%、*10%

	コントロール変数	コントロール変数 +経済変数	コントロール変数 +政治変数	コントロール変数 +社会変数	結合
年齢	0.997	0.991	0.992	0.997	0.988
性別	1.235	1.283	1.071	1.290	1.161
就学年数	0.851***	0.841***	0.835***	0.864***	0.834***
地域	***	**	***	***	***
期限付雇用		0.743			0.938
失業経験		0.835			0.814
所得階層		1.079			1.131
国会への不信			11.352***		6.536
欧州議会への不信			5.345***		5.340***
極右思想			5.935***		3.557*
反移民感情			2.872		2.807
他人への信頼度				0.796***	0.802***
人生満足度				1.096	1.014
結社への加入				0.760	0.908
NR ²	0.117	0.120	0.226	0.164	0.240
N	758	547	706	758	514

表4-⑤

国名：ドイツ 政党名：AfD データ：ESS2016 分析方法：二項ロジット

数字は Exp(B)、***1%、**5%、*10%

コントロール変数	コントロール変数 +経済変数	コントロール変数 +政治変数	コントロール変数 +社会変数	結合
年齢	0.982**	0.974***	0.977**	0.970***
性別	1.738*	1.621	1.655*	1.631
就学年数	0.852***	0.877**	0.867***	0.910
地域	*		*	*
期限付雇用	0.652			0.742
失業経験	1.241			1.021
所得階層	0.633**			0.760
国会への不信		4.385***		4.378***
欧州議会への不信		2.276*		1.576
極右思想		7.448**		10.665**
反移民感情		2.409*		2.406
他人への信頼度			0.862**	0.968
人生満足度			0.831***	0.919
結社への加入			0.607	0.562
NR ²	0.113	0.135	0.213	0.157
N	1856	1496	1787	1853

表4-⑥

国名：フィンランド 政党名：True Finns データ：ESS2016 分析方法：二項ロジット

数字は Exp(B)、***1%、**5%、*10%

コントロール変数	コントロール変数 +経済変数	コントロール変数 +政治変数	コントロール変数 +社会変数	結合
年齢	0.979***	0.977***	0.978***	0.979***
性別	2.104***	2.322***	2.175***	2.402***
就学年数	0.883***	0.871***	0.893***	0.894***
地域				
期限付雇用	0.801			0.813
失業経験	2.334***			1.846***
所得階層	0.804*			0.897
国会への不信		3.436**		1.717
欧州議会への不信		2.397**		1.644
極右思想		0.124**		0.141*
反移民感情		2.337		4.606*
他人への信頼度			0.854***	0.861***
人生満足度			0.903**	0.961
結社への加入			0.517***	0.511***
NR ²	0.110	0.166	0.138	0.158
N	1348	1155	1305	1348

表4-⑦

国名：フランス 政党名：FN データ：ESS2016 分析方法：二項ロジット

数字は Exp(B)、***1%、**5%、*10%

	コントロール変数	コントロール変数 +経済変数	コントロール変数 +政治変数	コントロール変数 +社会変数	結合
年齢	0.968***	0.968***	0.970***	0.970***	0.971***
性別	1.727***	1.913***	1.752**	1.886***	1.881**
就学年数	0.848***	0.825***	0.872***	0.868***	0.857***
地域					
期限付雇用		0.533			0.539
失業経験		1.543			1.447
所得階層		1.054			1.126
国会への不信			1.675		1.103
欧州議会への不信			1.703		2.633**
極右思想			6.633***		8.451***
反移民感情			4.228***		3.572***
他人への信頼度				0.816***	0.828***
人生満足度				0.987	1.030
結社への加入				0.554*	0.693
NR ²	0.116	0.156	0.252	0.160	0.318
N	1053	833	1013	1052	809

表4-⑧

国名：イギリス 政党名：UKIP データ：ESS2016 分析方法：二項ロジット

数字は Exp(B)、***1%、**5%、*10%

	コントロール変数	コントロール変数 +経済変数	コントロール変数 +政治変数	コントロール変数 +社会変数	結合
年齢	0.991	0.995	0.989	0.993	0.991
性別	1.532**	1.187	1.520*	1.552**	1.272
就学年数	0.877***	0.866***	0.880***	0.901***	0.875***
地域	**	*		**	
期限付雇用		0.882			1.023
失業経験		2.226***			1.491
所得階層		1.072			1.191
国会への不信			0.643		0.450
欧州議会への不信			3.804***		4.126***
極右思想			0.379		0.000
反移民感情			2.715**		6.291***
他人への信頼度				0.886**	0.898
人生満足度				0.896**	0.934
結社への加入				0.369	0.361
NR ²	0.103	0.167	0.168	0.131	0.280
N	1305	967	1185	1300	883

表 4-⑨

国名：イタリア 政党名：Movimento 5 Stelle データ：ESS2016 分析方法：二項ロジット

数字は Exp(B)、***1%、**5%、*10%

	コントロール変数	コントロール変数 +経済変数	コントロール変数 +政治変数	コントロール変数 +社会変数	結合
年齢	0.970***	0.975***	0.970***	0.968***	0.977**
性別	1.076	1.671**	1.171	1.142	1.849
就学年数	0.980	0.996	0.994	0.998	1.028
地域	**		**		
期限付雇用		0.723			0.862
失業経験		1.169			1.129
所得階層		0.742*			0.754
国会への不信			2.273***		1.827
欧州議会への不信			1.134		2.178
極右思想			0.404**		0.440
反移民感情			1.284		0.775
他人への信頼度				0.866***	0.944
人生満足度				0.900**	0.902
結社への加入				0.876	0.760
NR ²	0.117	0.151	0.160	0.158	0.198
N	924	451	831	924	416

表 4-⑩

国名：イタリア 政党名：Lega Nord データ：ESS2016 分析方法：二項ロジット

数字は Exp(B)、***1%、**5%、*10%

	コントロール変数	コントロール変数 +経済変数	コントロール変数 +政治変数	コントロール変数 +社会変数	結合
年齢	1.004	1.006	1.003	1.003	1.005
性別	1.636*	1.172	1.718*	1.756**	1.451
就学年数	0.977	0.971	0.988	0.991	1.002
地域	***		***	***	
期限付雇用		0.666			1.249
失業経験		0.931			1.168
所得階層		1.284			1.585
国会への不信			0.573		0.635
欧州議会への不信			0.728		0.941
極右思想			2.115		0.000
反移民感情			4.294***		5.831***
他人への信頼度				0.864**	0.871
人生満足度				0.995	0.868
結社への加入				0.348*	0.176
NR ²	0.286	0.289	0.324	0.311	0.377
N	924	451	831	924	416

表4-⑪

国名：オランダ 政党名：PVV データ：ESS2016 分析方法：二項ロジット

数字はExp(B)、***1%、**5%、*10%

	コントロール変数	コントロール変数 +経済変数	コントロール変数 +政治変数	コントロール変数 +社会変数	結合
年齢	0.978***	0.973***	0.980***	0.978***	0.971***
性別	1.110	1.265	1.059	1.209	1.231
就学年数	0.827***	0.847***	0.850***	0.866***	0.884***
地域	*	**	**		
期限付雇用		1.704*			1.736
失業経験		1.015			0.898
所得階層		0.545***			0.622**
国会への不信			2.874**		2.421
欧州議会への不信			4.168***		3.734***
極右思想			7.251***		9.044**
反移民感情			4.104**		2.389
他人への信頼度				0.765***	0.809***
人生満足度				0.855**	0.824**
結社への加入				0.751	0.836
NR ²	0.120	0.174	0.232	0.194	0.316
N	1177	921	1103	1177	877

表4-⑫

国名：スウェーデン 政党名：Sverigedemokraterna データ：ESS2016 分析方法：二項ロジット

数字はExp(B)、***1%、**5%、*10%

	コントロール変数	コントロール変数 +経済変数	コントロール変数 +政治変数	コントロール変数 +社会変数	結合
年齢	0.984**	0.980**	0.986*	0.987*	0.977**
性別	3.064***	2.760***	3.400***	3.317***	3.147***
就学年数	0.798***	0.794***	0.806***	0.833***	0.812***
地域					
期限付雇用		0.570			0.130**
失業経験		1.035			0.894
所得階層		0.832			0.930
国会への不信			1.894		1.964
欧州議会への不信			3.553***		2.811*
極右思想			1.348		0.948
反移民感情			5.620**		9.630**
他人への信頼度				0.759***	0.794***
人生満足度				0.986	0.888
結社への加入				0.896	0.766
NR ²	0.169	0.193	0.222	0.217	0.306
N	1257	1041	1134	1249	931

表 4-⑬

国名：スペイン 政党名：Unidos Podemos データ：ESS2016 分析方法：二項ロジット

数字は Exp(B)、***1%、**5%、*10%

	コントロール変数	コントロール変数 +経済変数	コントロール変数 +政治変数	コントロール変数 +社会変数	結合
年齢	0.971***	0.976***	0.970***	0.968***	0.974***
性別	1.109	1.826	1.063	1.135	0.882
就学年数	1.005	1.023	1.002	1.003	1.017
地域	***	***	**	***	**
期限付雇用		0.840			0.859
失業経験		1.733***			1.501
所得階層		0.781*			0.907
国会への不信			0.982		0.951
欧州議会への不信			2.252***		2.074**
極右思想			0.000		0.000
反移民感情			0.201		0.215
他人への信頼度				1.016	1.029
人生満足度				0.788***	0.766***
結社への加入				1.358	1.459
NR ²	0.107	0.144	0.125	0.150	0.200
N	1238	800	1042	1231	684

表 4-⑭

国名：ハンガリー 政党名：Fidesz データ：ESS2016 分析方法：二項ロジット

数字は Exp(B)、***1%、**5%、*10%

	コントロール変数	コントロール変数 +経済変数	コントロール変数 +政治変数	コントロール変数 +社会変数	結合
年齢	0.993	0.990	0.996	0.996	0.989
性別	0.883	0.857	0.864	0.915	0.872
就学年数	0.921***	0.908***	0.955	0.889***	0.889***
地域		*			
期限付雇用		0.832			0.854
失業経験		0.657			0.784
所得階層		1.052			0.915
国会への不信			0.156***		0.228***
欧州議会への不信			0.845		0.648
極右思想			2.412***		2.308**
反移民感情			3.007***		2.439**
他人への信頼度				0.990	0.976
人生満足度				1.277***	1.294***
結社への加入				0.723	1.117
NR ²	0.076	0.126	0.163	0.133	0.230
N	866	549	770	859	499

表4-⑮

国名：ハンガリー 政党名：Jobbik データ：ESS2016 分析方法：二項ロジット

数字はExp(B)、***1%、**5%、*10%

	コントロール変数	コントロール変数 +経済変数	コントロール変数 +政治変数	コントロール変数 +社会変数	結合
年齢	0.961***	0.968***	0.958***	0.961***	0.964***
性別	1.667**	1.702*	1.414	1.683**	1.466
就学年数	1.018*	0.992	0.990	1.042	1.001
地域					
期限付雇用		1.180			0.913
失業経験		1.162			1.044
所得階層		1.447*			1.584**
国会への不信			2.003		1.644
欧州議会への不信			1.637		2.754*
極右思想			2.339***		1.840
反移民感情			0.622		0.402*
他人への信頼度				0.934	0.930
人生満足度				0.955	0.960
結社への加入				0.333	0.139*
NR ²	0.143	0.169	0.169	0.155	0.202
N	866	549	770	859	499

表4-⑯

国名：ポーランド 政党名：PiS データ：ESS2016 分析方法：二項ロジット

数字はExp(B)、***1%、**5%、*10%

	コントロール変数	コントロール変数 +経済変数	コントロール変数 +政治変数	コントロール変数 +社会変数	結合
年齢	1.011***	1.009	1.010**	1.012***	1.008
性別	0.828	0.894	0.755*	0.842	0.832
就学年数	0.863***	0.895***	0.872***	0.869***	0.900***
地域	***	***		***	
期限付雇用		0.887			0.871
失業経験		1.276			1.344
所得階層		0.926			0.922
国会への不信			0.194***		0.203***
欧州議会への不信			1.662*		1.321
極右思想			7.432***		8.504***
反移民感情			0.930		3.177
他人への信頼度				0.954	0.906**
人生満足度				1.033	0.974
結社への加入				1.172	1.892*
NR ²	0.159	0.140	0.280	0.164	0.285
N	1041	667	842	1026	543

表5-①

国名：オーストリア 政党名：ÖVP データ：ESS2018 分析方法：二項ロジット

数字は Exp(B)、***1%、**5%、*10%

	コントロール変数	コントロール変数 +経済変数	コントロール変数 +政治変数	コントロール変数 +社会変数	結合
年齢	1.015***	1.011***	1.014***	1.015***	1.010***
性別	1.116	1.117	1.233*	1.113	1.252*
就学年数	0.987	1.016	0.982	0.987	1.012
地域	***	***	***	***	***
期限付雇用		0.590			0.564
失業経験		0.764*			0.750*
国会への不信			0.114**		0.155*
欧州議会への不信			0.602*		0.492**
極右思想			1.006		1.146
反移民感情			0.813		0.817
他人への信頼度				0.992	0.963
人生満足度				1.021	0.994
同世代の者と比べた 社会活動への参加度				1.100	1.094
NR ²	0.058	0.046	0.075	0.060	0.069
N	1690	1436	1546	1680	1318

資料出所：ESS2018

表5-②

国名：オーストリア 政党名：FPÖ データ：ESS2018 分析方法：二項ロジット

数字は Exp(B)、***1%、**5%、*10%

	コントロール変数	コントロール変数 +経済変数	コントロール変数 +政治変数	コントロール変数 +社会変数	結合
年齢	0.982***	0.982***	0.982***	0.979***	0.983***
性別	1.420***	1.435**	1.245	1.394**	1.220
就学年数	0.863***	0.842***	0.891***	0.876***	0.879***
地域	***	***	***	***	***
期限付雇用		1.814*			1.578
失業経験		1.149			1.139
国会への不信			2.882**		2.294
欧州議会への不信			3.706***		3.323***
極右思想			3.047**		2.912*
反移民感情			5.002***		5.226***
他人への信頼度				0.846***	0.914**
人生満足度				0.945	0.946
同世代の者と比べた 社会活動への参加度				0.954	1.006
NR ²	0.070	0.092	0.239	0.114	0.275
N	1690	1436	1546	1680	1318

表5-③

国名：ベルギー 政党名：VB データ：ESS2018 分析方法：二項ロジット

数字はExp(B)、***1%、**5%、*10%

	コントロール変数	コントロール変数 +経済変数	コントロール変数 +政治変数	コントロール変数 +社会変数	結合
年齢	0.964***	0.980	0.970**	0.970**	0.991
性別	1.162	0.951	1.273	1.269	1.053
就学年数	0.727***	0.759***	0.792***	0.774***	0.854*
地域					
期限付雇用		0.948			0.878
失業経験		1.288			1.473
国会への不信			2.469		2.261
欧州議会への不信			1.661		0.897
極右思想			5.916**		7.644***
反移民感情			3.244**		3.908**
他人への信頼度				0.793**	0.859
人生満足度				1.107	1.240
同世代の者と比較した 社会活動への参加度				0.763	0.822
NR ²	0.222	0.206	0.313	0.262	0.324
N	1107	913	1074	1104	888

表5-④

国名：スイス 政党名：スイス国民党 データ：ESS2018 分析方法：二項ロジット

数字はExp(B)、***1%、**5%、*10%

	コントロール変数	コントロール変数 +経済変数	コントロール変数 +政治変数	コントロール変数 +社会変数	結合
年齢	1.002	1.001	1.002	1.000	0.995
性別	1.610**	1.637**	1.596**	1.563**	1.493
就学年数	0.856***	0.874***	0.864***	0.863***	0.892***
地域					
期限付雇用		0.751			0.581
失業経験		0.426			0.327***
国会への不信			0.909		0.992
欧州議会への不信			1.032		0.773
極右思想			8.711**		12.689**
反移民感情			1.587		1.837
他人への信頼度				0.774***	0.812***
人生満足度				1.279***	1.286***
同世代の者と比べた 社会活動への参加度				0.953	0.906
NR ²	0.096	0.100	0.119	0.159	0.176
N	626	529	558	619	466

表5-⑤

国名：ドイツ 政党名：AfD データ：ESS2018 分析方法：二項ロジット

数字は Exp(B)、***1%、**5%、*10%

	コントロール変数	コントロール変数 +経済変数	コントロール変数 +政治変数	コントロール変数 +社会変数	結合
年齢	0.994	0.987*	0.984**	0.996	0.980**
性別	2.433***	2.238***	2.189***	2.397***	2.091***
就学年数	0.833***	0.828***	0.859***	0.866***	0.875***
地域	***	***	**	***	*
期限付雇用		0.595			0.736
失業経験		1.705**			1.243
国会への不信			7.209***		5.542***
欧州議会への不信			2.2807**		2.503**
極右思想			1.192		2.697
反移民感情			5.815***		4.983***
他人への信頼度				0.830***	0.944
人生満足度				0.889**	0.950
同世代の者と比べた 社会活動への参加度				0.849	0.769*
NR ²	0.135	0.145	0.309	0.180	0.327
N	1571	1376	1503	1566	1312

表5-⑥

国名：フィンランド 政党名：True Finns データ：ESS2018 分析方法：二項ロジット

数字は Exp(B)、***1%、**5%、*10%

	コントロール変数	コントロール変数 +経済変数	コントロール変数 +政治変数	コントロール変数 +社会変数	結合
年齢	0.983***	0.986**	0.984**	0.985**	0.988
性別	2.763***	3.103***	2.697***	2.914***	3.044***
就学年数	0.915***	0.914***	0.916***	6.928***	0.922***
地域					
期限付雇用		1.243			1.200
失業経験		2.154***			1.782**
国会への不信			1.848		1.413
欧州議会への不信			1.764		1.784
極右思想			0.667		0.752
反移民感情			2.863***		2.509**
他人への信頼度				0.843***	0.814***
人生満足度				0.912	0.922
同世代の者と比べた 社会活動への参加度				0.874	0.877
NR ²	0.101	0.146	0.128	0.131	0.191
N	1203	1058	1146	1200	1005

表5-⑦

国名：フランス 政党名：FN データ：ESS2018 分析方法：二項ロジット

数字はExp(B)、***1%、**5%、*10%

	コントロール変数	コントロール変数 +経済変数	コントロール変数 +政治変数	コントロール変数 +社会変数	結合
年齢	0.962***	0.958***	0.956***	0.953***	0.951***
性別	0.811	0.762	0.751	0.893	0.738
就学年数	0.822***	0.813***	0.853***	0.849***	0.846***
地域					
期限付雇用		0.725			0.825
失業経験		1.086			0.924
国会への不信			1.130		0.949
欧州議会への不信			2.707***		2.307***
極右思想			5.468***		5.581***
反移民感情			3.547***		3.690***
他人への信頼度				0.803***	0.900
人生満足度				0.875**	0.979
同世代の者と比べた 社会活動への参加度				1.048	0.932
NR ²	0.171	0.190	0.295	0.223	0.330
N	939	797	897	929	761

表5-⑧

国名：イギリス 政党名：UKIP データ：ESS2018 分析方法：二項ロジット

数字はExp(B)、***1%、**5%、*10%

	コントロール変数	コントロール変数 +経済変数	コントロール変数 +政治変数	コントロール変数 +社会変数	結合
年齢	0.994	0.993	0.981	0.997	0.981
性別	1.412	1.419	1.151	1.499	1.434
就学年数	0.878***	0.874***	0.916	0.902**	0.923
地域					
期限付雇用		0.317			0.269
失業経験		1.661			1.579
国会への不信			0.999		0.986
欧州議会への不信			3.779***		3.358***
極右思想			0.858		0.891
反移民感情			2.903***		3.485***
他人への信頼度				0.921	0.942
人生満足度				0.825***	0.893
同世代の者と比べた 社会活動への参加度				0.880	0.997
NR ²	0.053	0.072	0.130	0.094	0.178
N	1521	1249	1377	1509	1126

表5-⑨

国名：イタリア 政党名：Movimento 5 Stelle データ：ESS2018 分析方法：二項ロジット

数字はExp(B)、***1%、**5%、*10%

	コントロール変数	コントロール変数 +経済変数	コントロール変数 +政治変数	コントロール変数 +社会変数	結合
年齢	0.968***	0.967***	0.964***	0.968***	0.963***
性別	1.061	1.019	0.983	1.050	0.905
就学年数	0.980	0.962*	0.968*	0.981	0.946**
地域	***	***	***	***	***
期限付雇用		0.957			0.803
失業経験		0.836			0.853
国会への不信			0.756		0.637
欧州議会への不信			1.159		1.184
極右思想			0.141***		0.137***
反移民感情			1.195		1.200
他人への信頼度				1.010	0.981
人生満足度				0.915**	0.929
同世代の者と比べた 社会活動への参加度				1.099	1.114
NR ²	0.190	0.187	0.217	0.198	0.228
N	1260	806	1120	1251	725

表5-⑩

国名：イタリア 政党名：Lega Nord データ：ESS2018 分析方法：二項ロジット

数字はExp(B)、***1%、**5%、*10%

	コントロール変数	コントロール変数 +経済変数	コントロール変数 +政治変数	コントロール変数 +社会変数	結合
年齢	0.998	1.001	1.002	0.998	1.004
性別	1.169	1.033	1.158	1.207	1.152
就学年数	0.926***	0.909***	0.943***	0.930***	0.937**
地域	***	***	***	***	***
期限付雇用		1.051			1.099
失業経験		0.992			1.204
国会への不信			0.821		0.935
欧州議会への不信			2.088**		1.698
極右思想			4.366***		4.037***
反移民感情			3.889***		4.126***
他人への信頼度				0.902***	0.949
人生満足度				1.223	1.205***
同世代の者と比べた 社会活動への参加度				0.758**	0.699**
NR ²	0.132	0.135	0.222	0.162	0.253
N	1260	806	1120	1251	725

表5-①

国名：オランダ 政党名：PVV データ：ESS2018 分析方法：二項ロジット

数字はExp(B)、***1%、**5%、*10%

	コントロール変数	コントロール変数 +経済変数	コントロール変数 +政治変数	コントロール変数 +社会変数	結合
年齢	0.990	0.993	0.986*	0.992	0.991
性別	2.215***	2.431***	2.454***	2.430***	3.136***
就学年数	0.846***	0.838***	0.874***	0.860***	0.876***
地域					
期限付雇用		1.486			1.605
失業経験		1.031			0.802
国会への不信			5.558**		3.383
欧州議会への不信			3.022**		2.032
極右思想			0.664		1.216
反移民感情			3.523***		3.268***
他人への信頼度				0.787***	0.716***
人生満足度				0.967	1.004
同世代の者と比べた 社会活動への参加度				0.843	0.862
NR ²	0.114	0.134	0.180	0.148	0.238
N	1195	1002	1104	1180	913

表5-②

国名：ノルウェー 政党名：Rødt データ：ESS2018 分析方法：二項ロジット

数字はExp(B)、***1%、**5%、*10%

	コントロール変数	コントロール変数 +経済変数	コントロール変数 +政治変数	コントロール変数 +社会変数	結合
年齢	0.983	0.970**	0.978	0.984	0.962**
性別	0.446*	0.443*	0.317**	0.492*	0.329**
就学年数	1.109**	1.084	1.083	1.105	1.064
地域					
期限付雇用		0.179			0.135
失業経験		1.696			1.398
国会への不信			0.000		0.000
欧州議会への不信			5.955		7.075
極右思想			0.000		0.000
反移民感情			0.000		0.000
他人への信頼度				0.992	1.126
人生満足度				0.703***	0.650***
同世代の者と比べた 社会活動への参加度				1.158	0.985
NR ²	0.107	0.119	0.164	0.151	0.235
N	1072	957	872	1066	778

表5-⑬

国名:ノルウェー 政党名:Fremskrittspartiet データ:ESS2018 分析方法:二項ロジット

数字はExp(B)、***1%、**5%、*10%

	コントロール変数	コントロール変数 +経済変数	コントロール変数 +政治変数	コントロール変数 +社会変数	結合
年齢	1.007	1.006	1.002	1.012*	1.002
性別	1.885***	1.718**	1.901**	1.943***	1.748*
就学年数	0.911***	0.902***	0.923***	0.913***	0.922**
地域					
期限付雇用		0.876			0.728
失業経験		1.471			1.405
国会への不信			1.179		0.555
欧州議会への不信			5.298***		5.015***
極右思想			4.795***		6.863***
反移民感情			0.676		1.436
他人への信頼度				0.856***	0.823***
人生満足度				1.012	1.072
同世代の者と比べた 社会活動への参加度				0.719**	0.790
NR ²	0.070	0.080	0.131	0.105	0.189
N	1072	957	872	1066	778

表5-⑭

国名:ハンガリー 政党名:Fidesz データ:ESS2018 分析方法:二項ロジット

数字はExp(B)、***1%、**5%、*10%

	コントロール変数	コントロール変数 +経済変数	コントロール変数 +政治変数	コントロール変数 +社会変数	結合
年齢	0.998	1.001	0.998	1.002	1.003
性別	0.775*	0.707**	0.790	0.836	0.791
就学年数	0.958*	0.960*	0.958	0.897***	0.900***
地域	***	***	**	***	*
期限付雇用		1.215			1.511
失業経験		1.058			1.013
国会への不信			0.098***		0.128***
欧州議会への不信			1.444		1.442
極右思想			3.656***		3.930***
反移民感情			2.219***		2.054***
他人への信頼度				1.042	1.023
人生満足度				1.404***	1.315***
同世代の者と比べた 社会活動への参加度				1.096	1.138
NR ²	0.065	0.085	0.215	0.202	0.309
N	928	830	829	899	735

表5-⑮

国名：ハンガリー 政党名：Jobbik データ：ESS2018 分析方法：二項ロジット

数字は Exp(B)、***1%、**5%、*10%

	コントロール変数	コントロール変数 +経済変数	コントロール変数 +政治変数	コントロール変数 +社会変数	結合
年齢	0.976***	0.972***	0.971***	0.974***	0.965***
性別	1.373	1.362	1.453*	1.254	1.322
就学年数	0.991	0.982	1.002	1.018	1.021
地域					
期限付雇用		0.428			0.375
失業経験		0.618			0.657
国会への不信			4.175***		3.288***
欧州議会への不信			0.821		0.918
極右思想			1.222		1.267
反移民感情			1.085		1.196
他人への信頼度				0.952	0.993
人生満足度				0.816***	0.782***
同世代の者と比べた 社会活動への参加度				1.111	1.217
NR ²	0.087	0.104	0.138	0.131	0.204
N	928	830	829	899	735

表5-⑯

国名：ポーランド 政党名：PiS データ：ESS2018 分析方法：二項ロジット

数字は Exp(B)、***1%、**5%、*10%

	コントロール変数	コントロール変数 +経済変数	コントロール変数 +政治変数	コントロール変数 +社会変数	結合
年齢	1.008*	1.011*	1.009	1.010*	1.011
性別	0.877	1.028	0.868	0.937	1.112
就学年数	0.860***	0.857***	0.855***	0.876***	0.844***
地域	***	***	***	***	***
期限付雇用		1.109			0.846
失業経験		1.427			1.511
国会への不信			0.230***		0.225***
欧州議会への不信			3.012***		2.714**
極右思想			8.532***		11.179***
反移民感情			2.248***		2.272***
他人への信頼度				0.917**	0.908*
人生満足度				1.114**	1.057
同世代の者と比べた 社会活動への参加度				0.796**	0.739**
NR ²	0.216	0.233	0.390	0.233	0.429
N	788	597	711	764	530

加入」についてのデータがないので、「同世代の者と比べた社会活動の参加度」（スケール）を代わりに使っている。

表4がESS2016データを使った分析結果であり、また表5がESS2018年データを使った分析結果である。なお、これらの表に掲げた数値はすべてExp (B) である。すなわち、説明変数がダミー変数である場合、Aであることは非Aである場合に比べてポピュリスト政党への投票確率を何倍高めるかを示す。また説明変数が連続変数である場合、その数値が1単位上昇するごとに投票確率が何倍高まるのかを表している。そして、Exp (B) が1未満の場合、その説明変数は被説明変数に対してマイナスに働き、Exp (B) が1を上回る場合、その説明変数は被説明変数に対してプラスに働くことを意味している。

まずコントロール変数がポピュリスト政党への投票にどのように作用しているのかをみておきたい。「年齢」が統計的に有意な影響を与えているのは、ESS2016年データでいえば、オランダの自由党 (PVV)、フランスの国民戦線 (FN)、ドイツの「ドイツのための選択肢」 (AfD)、イタリアの5つ星運動 (M5S)、フィンランドの真正フィン人党、オーストリアの自由党 (FPÖ)、スペインのポデモス (Podemos)、ハンガリーのヨッビク (Jobbik) である。いずれもExp (B) は1未満であり、したがって、若者ほどこれらのポピュリスト政党を支持する傾向があることがわかる。たとえば、オランダの自由党に投票する確率は、年齢が1才上がるごとに0.978倍と推計されているので、20歳の若者に比べ40歳の中年が自由党に投票する確率は $0.978^{20} = 0.641$ 倍、また60歳の高齢者のそれは $0.978^{40} = 0.411$ 倍と低くなる。

これまでポピュリスト政党の支持者は、「静かなる革命」に乗り遅れた中高年と考えられて

きたが、ここでの実証結果はそうした仮説を反証するものといえよう。

ただし、ESS2018年データで「年齢」がポピュリスト政党への投票に与える影響をみると、統計的に有意な影響がはっきりと確認できるのは、オーストリアの自由党 (FPÖ)、フランスの国民戦線 (FN)、ハンガリーのヨッビク (Jobbik)、イタリアの5つ星運動 (M5S) と、その数が減っている。つまり、このことは次第に世代の壁を越えてポピュリズムが波及していることを裏書きしているのかもしれない。

次に、「性別」の影響がはっきりと確認できるのは、ESS2016データでいえば、フランスの国民戦線 (FN)、スウェーデンのスウェーデン民主党 (SD)、フィンランドの真正フィン人党、またESS2018では、ドイツの「ドイツのための選択肢」 (AfD)、フィンランドの真正フィン人党、オランダの自由党 (PVV)、ノルウェーの進歩党 (FrP) である。ここでは、男性を「1」、女性を「0」とするダミー変数を採用しているので、表4・表5に掲げたExp (B) がいずれも1以上であることは、男性ほどポピュリスト政党を支持しやすいことを意味している。

ところで、コントロール変数の中でほぼすべてのポピュリスト政党に共通してみとめられるのは、「就学年数」の影響である。その例外を探すとすれば、ESS2016年データでは、イタリアの北部同盟 (LN) および5つ星運動 (M5S)、スペインのポデモス (Podemos)、またESS2018データでは、ハンガリーのヨッビク (Jobbik)、イタリアの5つ星運動 (M5S) と少ない。その影響力はたとえば、オランダの自由党 (PVV) の場合、就学年数が1年上がるごとに0.827倍と推計されているので、高卒に比べ大卒が自由党に投票する確率は $0.827^4 = 0.468$ 倍と低いことになる。すなわち、高学歴者は減多にポピュリ

スト政党には投票しないとみることができよう。ただし、その例外はスペインのポデモスのような左翼ポピュリスト政党である。統計的に有意ではないがExp (B) が1以上と推計されているので、インテリ層がこれらの政党を支えている可能性がある。

有権者が生活する「地域」の影響はどうか？「地域」がポピュリスト政党への投票に大きな影響力を持つ可能性として考えられるのは次の3つである。一つは、当該のポピュリスト政党がそもそも「地域政党」として出発した場合（たとえば、イタリアの北部同盟）、二つ目は、ポピュリズムはしばしばカリスマ的なリーダーの登場によって誕生するケースが多いので、当該地域がそのリーダーの出身地である場合（たとえば、オランダの自由党党首ビルダースの出身地、リンブルグでの傑出した人気）、そして三つめは、当該地域が経済のグローバル化によって大きな打撃を受けている場合である。最後のケースについては、「地域」をひとつの経済変数として捉えることもできよう。

「地域」が大きな影響力をもっているポピュリスト政党は、ESS2016年データでは、イタリアの北部同盟 (LN)、オーストリアの自由党 (FPÖ)、スペインのポデモス (Podemos)、ポーランドの法と正義 (PiS)、スイスのスイス国民党、ESS2018年データでは、オーストリアの自由党 (FPÖ)、ドイツの「ドイツのための選択肢」(AfD)、ハンガリーのフィデス (Fidesz)、イタリアの5つ星運動 (M5S) と北部同盟 (LN)、ポーランドの法と正義 (PiS) である。このうち、ESS2016データとESS2018年データがともに利用でき、分析結果を比較できるのは、オランダの自由党 (PVV)、ドイツの「ドイツのための選択肢」(AfD)、イタリアの北部同盟 (LN) と5つ星運動 (M5S)、ポーランドの法と正義 (PiS) である。ESS2016年データ

で確認できたオランダ自由党の「地域」の影響力がESS2018年データで確認できなくなったのはおそらく、その影響力がオランダ全国規模に拡大したことに理由があろう。また逆に、ESS2016年データで確認できなかった「ドイツのための選択肢」(AfD) の「地域」における影響力がESS2018年データで突然出現した背景には、同党がこの間により過激化し、旧東ドイツ地域で大きな影響力を持つようになったことがあるといえるかもしれない。

次に、コントロール変数に経済変数を加えた分析結果を検討したい。「期限付き雇用」「3か月以上の失業経験」「所得階層」といった経済変数のいずれかが投票に影響を与えると確認できるポピュリスト政党は、ESS2016年データでいえば、オランダの自由党 (PVV)、ドイツの「ドイツのための選択肢」(AfD)、イギリスのUKIP、フィンランドの真正フィン人党、オーストリアの自由党 (FPÖ)、スペインのポデモス (Podemos)、またESS2018年データでいえば、ドイツの「ドイツのための選択肢」(AfD)、フィンランドの真正フィン人党とその数は限られる。その場合も、「失業経験」と「所得階層」が重要なのであって、「期限付き雇用」か否かはほとんど無関係である²。たとえば、「失業経験」がある者はない者と比べてイギリスのUKIPに投票する確率が2.226倍高く、フィンランドの真正フィン人党に投票する確率は2.334倍高い (表4)。また「所得階層」がワンランク上昇するごとに、オランダの自由党 (PVV) に投票する確率は0.545倍下がり、「ドイツのための選択肢」(AfD) に投票する確率は0.633倍下がる (表4)。

他方、コントロール変数に「国会への不信」「欧州議会への不信」「極右思想」「反移民感情」といった政治変数を加えた分析結果についてはどうか？表4をみても表5をみても、経済

変数に比べると、政治変数の強い影響力を確認できるポピュリスト政党が多い。すなわち、「国会への不信」や「欧州議会への不信」をもつ者は、そうでない者に比べてポピュリスト政党への投票に走りやすいといえる。また、右翼ポピュリスト政党についていえば、「反移民感情」や「極右思想」をもつ者は、そうでない者に比べてこれらの政党を支持する傾向がある。ただし、左翼ポピュリスト政党については、その限りではない。むしろまったく逆にその影響力が作用することもある。たとえば、イタリアの5つ星運動(M5S)のような左翼ポピュリスト政党は「極右思想」をもつ者からは強く忌避されている。ESS2016データでExp(B)は0.404、ESS2018年データでExp(B)は0.141となっており、文字通りイタリアの5つ星運動は左翼政党であることがわかる。

また、これらの政治変数の影響を分析してきわめて興味深い点は、ポピュリスト政党がすでに政権についている場合、「国会への不信」という変数がこれらのポピュリスト政党への投票にマイナスに作用することである。すなわち、政権与党にあるポピュリスト政党には「国会への不信」感を持つ者は投票しないということである。このケースに該当するのは、政権与党であるポーランドの法と正義(PiS)、オーストリアのオーストリア国民党(ÖVP)、ハンガリーのフィデス(Fidesz)である。

最後に、コントロール変数に「他者への信頼度」「人生満足度」「結社への加入」「同世代の者と比べた社会活動への参加度」といった社会変数を加えて、それらの影響をみた。表4・表5に示したように、これらの社会変数のいずれかひとつがポピュリスト政党への投票に統計的に有意な影響を及ぼしているケースが実に多いことが注目されよう。一般的には、「他人への信頼度」「人生満足度」「社会活動への参加度」

が高いほど、また「結社」に加入しているほど、ポピュリズム政党への投票確率は低くなる傾向がある。ただし、ここにも例外がある。当該のポピュリスト政党がすでに政権についている場合、「人生満足度」の高い人がその政党を強く支持する傾向がある。この傾向がはっきりと確認できるのが、先と同様、ポーランドの法と正義(PiS)、オーストリア国民党(ÖVP)、ハンガリーのフィデス(Fidesz)であり、さらにスイス国民党とイタリアの北部同盟(LN)である。

なお、以上のすべての変数を加えた結合モデルの結果を参考までに付けておいた。結合モデルの一番の問題点は、以上の分析結果と比べて利用できるサンプル数が大きく減少してしまうことにある。その結果、推計式の説明力を示すNagelkerke R²値が高めに推定される危険がある³。

ただし、説明変数の数およびサンプル数を考慮に入れても、コントロール変数に政治変数を加えた推計式の説明力が高くなることも注目されよう。イングレハートらはこのような結果を根拠に、グローバル化による経済不安説を斥け、「静かなる革命」への反動説の妥当性を主張している⁴。

しかしながら、上述したように、ここでコントロール変数として取り上げた「地域」変数は、グローバル化による経済不安を示す経済変数としての意味を持っているとみることもできよう。その意味で、ここに示したモデルは、グローバル化による経済不安をうまくモデル化しているとはけっしていけない。

また先にみたように、ガイソらは、投票回避行動に経済ショックが与える影響をイングレハートらが無視している可能性があるとして指摘していた。そこで、この点を調べるために、投票回避行動がどのような要因によって決まるのかを

表6 投票回避行動の決定要因

データ：ESS2016 分析方法：二項ロジスティック回帰

数字は Exp(B)、*** 1%、** 5%、* 10%

年齢	0.972***
性別	1.011
就学年数	0.922***
国	***
期限付き雇用	1.116**
失業経験	1.246***
所得階層	0.829***
国会への不信	1.497***
欧州議会への不信	1.145**
極右思想	0.633***
反移民感情	1.252***
他人への信頼度	0.956***
人生満足度	0.934***
結社への加入	0.540***
NR ²	0.179
N	24823

資料出所：ESS2016

ESS2016の全サンプルを使って推計してみた。なお、ここでも二項ロジスティック回帰分析を使って推計している。

表6がその結果である。本表から明らかなことは、投票回避行動を説明するモデルがポピュリスト政党への投票を説明するモデルとほぼパラレルということである。すなわち、①年齢が若いほど、投票回避の確率が高く、また②就学年数が短いほど、投票を回避する確率が高まる。また、③「失業経験」がある者はない者に比べて投票を回避する確率が高く、④「期限付き雇用」に就く者はそうでない者に比べて投票を回避する確率が高い。そして、⑤「所得階

層」がワンランクずつ上昇するほど、投票を回避する確率が低くなる傾向がある。さらに、⑥「国会への不信」「欧州議会への不信」がある者はない者に比べて投票を回避する確率が高く、⑦「反移民感情」をもつ者はそうでない者に比べて投票を回避する確率が高いといえる。ただし、⑨「極右思想」をもつ者はそうでない者に比べて選挙に行く確率は高いことに注意したい。加えて、社会変数についていえば、⑩「人生満足度」「他人への信頼度」が高いほど、投票を回避する確率は低く、⑪「結社」に加入する者はそうでない者に比べて投票を回避する確率は低い。

このように、低学齢で不安定な雇用に就き、しばしば失業を経験し、その結果、収入が低い若者は、ポピュリスト政党に投票する前に、選挙に行かないという選択にも直面している。そして、彼らもしくは彼女らが選挙に行かない理由は、政治への不信感をもっていること、また、社会から孤立したその人間関係にあるとみることができる。

4. ポピュリスト政党の台頭によって既成政党もまた変化しつつあるのか？

ポピュリスト政党の台頭に直面して、既成政党はどのような戦略を採りつつあるのだろうか？

ヨーロッパの大陸諸国は戦後、比例制原理に基づいた多党体制をとってきたため、キリスト教民主党を中軸に据え、社会民主党との中道左派連立政権を採るか、あるいは自由民主党のようなブルジョア政党との中道右派連立政権を採るかの選択を繰り返してきた。これが小選挙区制のもとで保守党と労働党の二大政党体制を採用してきたイギリスとの大きな違いである。1980年代に入ると「緑の党」がこの既成政党の

一群に加わるが、1990年代まで「中道右派」対「中道左派」という構図が大きく変わることはなかった。

だが、中道左派連立政権も中道右派連立政権も、1992年のマーストリヒト条約締結以降、それぞれの政策の特色を出しにくい時代を迎えている。マーストリヒト条約が定めたものは、共通通貨ユーロを採用するための経済政策の収斂基準であった。ここでいう経済政策の収斂基準とは、ユーロ導入までに物価水準や金利水準をEU加盟国間で収斂させるとともに、それぞれの加盟国が抱える財政赤字を単年度でGDPの3%以内、また累積赤字をGDPの60%以内に抑える取り決めである。このような厳しい基準の下で、各国の経済政策は自由度を失った。また1999年のユーロ導入以降も、金融政策の管轄権が欧州中央銀行に移譲されるとともに、単年度の財政赤字をGDPの3%以内、累積赤字をGDPの60%以内に抑える取り決めが引き続き加盟国に課されたため、加盟国の財政政策は事実上大きな制約を受けることになった。その結果、中道左派政権が誕生しても、また中道右派政権が誕生しても、その社会経済政策に大差がなく、喫緊の生活課題の解決を望むEU加盟国の国民を痛く失望させることとなった。そして、この間隙について政治の表舞台に登場したのが、ほかならぬポピュリスト政党であることはいうまでもない。

既成政党がポピュリスト政党の台頭に直面して採った戦略は、次の二つである。ひとつは、ポピュリスト政党との政策の違いをより鮮明にさせて、ポピュリスト政党を孤立化させる戦略である。もうひとつは、ポピュリスト政党との政策的距離を縮めて、同じプラットフォームの上で政党間競争を繰り広げる戦略である。通常、ポピュリスト政党が登場して間もない時点では第一の戦略が採られることが多いが、ポピュリ

スト政党がいよいよその勢力を伸ばし、既成政党の有力な支持者までも奪う段階になると、第二の戦略が採用されることが多い。

しかしながら、第二の戦略は、ポピュリスト政党と同じプラットフォームの上で戦うことを意味しているので、最終的には既成政党の自己否定という結末をみることにもなる。このような選択をした最近の事例としては、クルツ党首のもと、オーストリア自由党（FPÖ）と同じように移民政策を厳格化する公約をしたことで大きく躍進したオーストリア国民党（ÖVP）がある（2017年10月15日）。また、フレデリクセン党首のもとで、低迷する党勢を回復させるため、公然と移民排斥を公約に掲げ総選挙に勝利したデンマークの社会民主党がある（2019年6月5日）。

なお、ここではオランダを取り上げ、既成政党がポピュリスト政党の台頭にどのように対処してきたのかを明らかにしたい。

まず、オランダにおいてポピュリスト政党が登場した経緯を簡単にみておこう。オランダ最初のポピュリスト政党は、党首の名前を冠したフォルタイン党である。この党は、同性愛者の大学教授、ピム・フォルタインが同性愛を固く禁じるイスラム原理主義に反対するために2002年につくった政党である。だが、2002年5月の総選挙に先立つ2週間前にフォルタイン自身が動物愛護主義者の若者の銃弾に倒れたことから、かえって国民の注目を浴び、同党に地滑り的な勝利をもたらした。とはいえ、同党に所属する多くの議員たちは政治についてまったくの素人であったため、その後二度の総選挙を経て政治の舞台から完全に消えていった。そして、その後継者として登場したのが、自由民主党（VVD）の移民統合大臣を務めたりタ・ファードンクであり、同じく自由民主党（VVD）出身のヘルト・ビルダース議員であった。

ビルダースは、2006年2月、自由民主党(VVD)をひとり飛び出し、イスラム系移民排斥とトルコのEU加盟反対を公約に掲げる自由党(PVV)を結成した。そして、同年11月に行われた総選挙では9議席を獲得し、既成政党のD66を抑えて第5党の地位を得ている。

だが、この段階では自由党(PVV)のプレゼンスはそれほど大きなものではなかった。自由党(PVV)が大きく飛躍したのは、2010年6月に行われた総選挙においてである。すなわち、オランダの中軸政党であるキリスト教民主党(CDA)を堂々と抑えて、自由民主党(VVD)、労働党(PvdA)に次ぐ24議席を獲得し、第3党に躍り出ている。そして、この第3党の地位は2012年9月の総選挙においても維持され、さらに労働党(PvdA)の歴史的な敗北が起きた2017年3月の総選挙では、自由民主党(VVD)に次ぐ第2党の地位を得るまでに至っている。

この間、オランダ政治の争点は、移民問題とEU統合問題にあった。オランダは戦後、旧植民地やトルコから数多くの移民を受け入れ、いまやその第二世代、第三世代の時代を迎えている。移民問題の大きな争点は、そのようなエスニック・マイノリティを本国に送り返すことではなく、かれらの文化的な統合を実現できるかどうかにある。したがって、家族再結合によって新たに入国してくる移民の数を極力抑えるとともに、それらの人々に同化政策に近い形で統合政策を実施することの是非が問われている⁵⁾。

一方、EU問題についての最大の争点は、EU統合をこれ以上推し進めるかどうかにある。2008年のリーマンショックの余波を受けて2009年から始まったユーロ危機は、EU加盟国を南北・東西に分断した。そして、ユーロ危機の再発を防止するためにその後示されたEU首脳のスナリオは、将来の財政同盟・政治統合を見据えたものであった⁶⁾。しかしながら、ユーロ危

機からいち早く立ち直ったオランダは、そのいづれにも反対である。

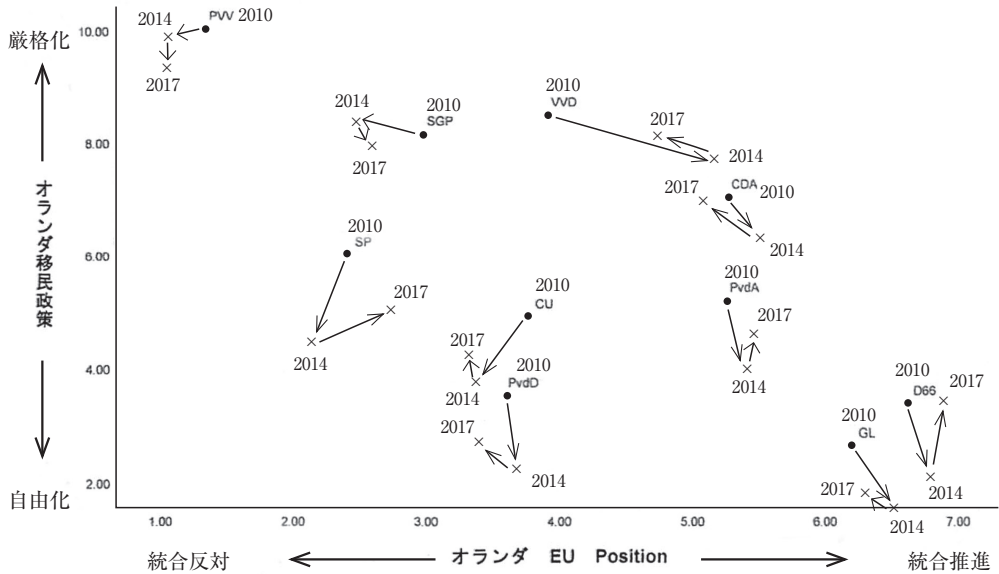
そこで以下では、移民問題とEU統合問題に関して、オランダの既成政党とポピュリスト政党がどのような政策スタンスをとってきたのかを時系列で辿ることにより、既成政党がポピュリスト政党を抑え込むうえでいかなる戦略をとってきたのかを明らかにしたい。

図11がそれをみたものである。ここでは、Chapel Hill Expert Surveyの2010年データ、2014年データ、2017年データをそれぞれ使っている。なお、横軸はEU統合をこれ以上推進するかどうかについて、また縦軸は移民入国政策の厳格化を図るかどうかにあつての各時点での各政党の得点である。

オランダには、ビルダースが率いる自由党(PVV)の他に、「左翼ポピュリスト政党」である社会主義党(SP)が存在するが、総選挙ごとに既成政党の一番のターゲットとなってきたのはやはり自由党(PVV)である。EU統合のこれ以上の推進にもっとも強硬に反対し、かつ移民入国政策についてもっとも強くその厳格化を求める点で、自由党(PVV)は際立った存在である。したがって、こんにちのオランダ政治では、そこからどの程度の距離を置くかに各党のレーゾンデートルがかかっているとみて差し支えない。

図11をみると、2010年から2014年までの政策スタンスの変化と、2014年から2017年にかけての政策スタンスの変化が正反対の方向に動いていることがわかる。すなわち、2010年から2014年までの間は、既成政党は移民政策とEU統合についての政策スタンスにおいてできるだけ自由党(PVV)から距離を置こうとし、自らの政策を鮮明にすることで自由党を孤立化させようとしてきたといえる。だが、2014年から2017年にかけてこれとはまったく逆なことが起きてお

図11



オランダ下院の政党別議席数

2017年選挙で獲得した議席数 (定数 150) 2012年選挙と比較した議席数の増減

自由民主党 (VVD)	33	- 8	(41)
自由党 (PVV)	20	+ 5	(15)
キリスト教民主党 (CDA)	19	+ 6	(13)
民主 66 (D66)	19	+ 7	(12)
グリーンレフト (GL)	14	+10	(4)
ソーシャルリスト党 (SP)	14	- 1	(15)
労働党 (PvdA)	9	-29	(38)
キリスト教統一党 (CU)	5	± 0	(5)
動物愛護党 (PvdD)	5	+ 3	(2)
50 プラス (50plus)	4	+ 3	(1)
汎移民党 (DENK)	3	+ 2	(1)
国家改革党 (SGP)	3	± 0	(3)
反 EU 党 (FvD)	2	+ 2	(0)

資料出所：CHES2010, CHES2014, CHES2017

り、とりわけ移民政策において既成政党と自由党 (PVV) との距離は縮まっている。これにはおそらく、2015年のヨーロッパ難民危機が絡んでいることが考えられるが、総選挙ごとに自由党 (PVV) の党勢がいつこうに衰えることを知らない状況が出現したため、既成政党がこれまでの戦略を大きく変え、自由党 (PVV) と同じプラットフォームの上で政党間競争を繰り広げる戦略に打って出た可能性が高い。

すでに述べたように、2017年3月の総選挙では、これまで既成政党の一角を築いてきた労働党 (PvdA) が歴史的な敗北を喫した。党勢を回復するために、次回の総選挙では自由党 (PVV) と同じプラットフォームに立ち、移民政策の厳格化ならびにこれ以上のEU統合推進に歯止めをかけることを公約に掲げることも考えられよう。ただ、その場合、労働者の政党としての自己否定につながる懸念される。

5. 左翼ポピュリズムは希望か？

図1で示したように、スペインのポデモス (Podemos)、ギリシャのシリザ (Syriza)、イタリアの5つ星運動 (M5S) といったいわゆる「左翼ポピュリスト政党」は、「権威主義」対「コスモポリタン・リベラリズム」という軸で見れば、後者の立場に近く、その点で「右翼ポピュリスト政党」とは対照的である。他方、図2に示したように、「反エリート主義」対「エリート主義」という軸から見ると、明らかに前者の立場にあり、この点では「右翼ポピュリズム」と共通するところが多く、「エリート主義」をとる既存の中道左派政党や緑の党とは大きな距離がある。

政治学者のムフによれば、「左翼ポピュリスト政党」がいま新たに注目される背景には、既存の中道左派政党が職場を基盤にした「階級政

治」に拘泥し、そこから零れ落ちる人々を無視してきたことがある、という (Mouffe, 2018)。かれがあげる「零れ落ちた人々」とは、たとえば、劣悪な環境の下で働く非正規労働者であり、移民であり、同性愛者等である。そして、これらの人々が希望を託す政党こそ、「左翼ポピュリスト政党」にほかならないとする。また、「左翼ポピュリスト政党」は、インターネット社会のデジタル・デモクラシーを利用して政治の表舞台に登場した点に共通性がある。この「草の根の民主主義」という点に注目して、その動きを民主主義の原点に戻るものだ、と高く評価する声もある (Mouffe, 2018)。

しかしながら、「左翼ポピュリスト政党」がそのマニフェストに掲げる個々の政策をつぶさにみてゆくと、長期的には実効性が乏しいものが多いことに気づく。たとえば、イタリアの5つ星運動 (M5S) は、北部同盟と組んだ連立政権 (コンテ内閣) の政策の目玉のひとつとして、2019年4月、公的年金の支給開始年齢を62歳に引き下げる「クウォータ100」制度を導入している。また、スペインのポデモス (Podemos) は、その貧困撲滅対策の柱に「ベーシックインカム」を据えている。

また、これらの政党は、ユーロ危機から脱出する過程においてEUから強制された緊縮政策に強く反対する点で共通しており、反緊縮政策を実施することがむしろ経済の再生につながると考えている。このような主張の背景には、異端の経済理論である「MMT (Modern Monetary Theory) 理論」があると考えられるが、ギリシャ、スペイン、イタリアともに共通通貨ユーロをすでに採用しており、もし国家財政が破綻するようなことがあれば、それは直ちにユーロ危機の再燃につながることはほぼまちがいない。

ここでは、「ベーシックインカム」を取り上

げ、それが貧困没滅のために長期的に実効性がある政策なのかを検証したい。

ベーシックインカムはすべての国民もしくは住民に無条件に最低生活費を保障する制度であるが、本制度はヨーロッパの市民にどの程度支持されているのだろうか。幸いなことに、European Social Survey 2016はベーシックイ

ンカムの導入に対する賛否を各国の国民に聞いている。そこでまず、支持政党別にベーシックインカムに対する態度が国ごとにどのように違うのかをみておきたい。

表7がそれであるが、これを見ると、イタリアでは直近の選挙で5つ星運動に投票した人の56.9%が、またスペインでもポデモスに投票し

表7 政党別にみたベーシックインカムへの支持率(%)

オーストリア											
	SPÖ	ÖVP	FPÖ	Grüne	全体						
反対	55.2	65.9	62.1	37.4	57.1						
賛成	44.8	34.1	37.9	62.6	42.9						
オランダ											
	VVD	PvdA	PVV	SP	CDA	D66	CU	GL	PvdD	50plus	全体
反対	63.8	45.9	43.9	37.7	64.5	43.3	37.1	35.5	36.4	33.3	50.5
賛成	36.1	54.1	53.1	62.4	34.1	56.7	54.3	64.5	63.6	46.7	49.4
ドイツ											
	CDU/CSU	SPD	Die Linke	Gie Grünen	AfD	全体					
反対	64.2	52.8	31.1	47.9	68.7	55.9					
賛成	35.9	47.1	69.0	52.1	23.5	44.1					
フランス											
	FN	PS	UMP	EELV	全体						
反対	64.4	39.8	60.3	42.0	51.9						
賛成	35.5	60.2	39.8	58.1	48.5						
イギリス											
	Conservative	Labour	Liberal Democratic	Scottish	Green	UKIP	全体				
反対	55.8	47.6	51.3	56.3	34.3	59.6	51.6				
賛成	44.2	52.3	48.6	43.7	62.9	40.4	48.3				
イタリア											
	PD	M5S	PdL	LN	全体						
反対	51.6	43.1	48.1	52.0	48.5						
賛成	48.5	56.9	52.0	44.0	51.5						
スウェーデン											
	Miljopartiet	Moderate	Socialdemokrat	SD	全体						
反対	48.5	71.7	62.8	72.8	62.7						
賛成	51.6	28.2	37.1	22.8	37.3						

フィンランド

	National Coalition	SPP	Centre	True Finns	Green	Social Democratic	Left	全体
反対	54.3	43.3	43.9	43.1	30.4	41.0	23.5	43.5
賛成	45.8	46.3	56.2	56.8	69.7	59.1	76.5	56.6

ベルギー

	Groen	CD&V	N-VA	SPA	VB	OpenVLD	CDH	Ecolo MR	PS	全体	
反対	24.4	54.6	53.3	44.8	60.7	47.6	34.1	18.3	39.2	34.4	42.7
賛成	75.6	45.3	46.7	55.3	39.3	52.5	65.8	79.6	60.8	65.5	57.3

スイス

	Swiss Peoples	Social Democratic	FDP	Christian	Green	Green Liberal	全体
反対	79.8	49.2	85.0	79.3	46.8	65.1	70.1
賛成	20.2	50.8	15.0	20.7	53.2	34.9	29.9

スペイン

	PP	PSOE	Podemos	Ciudadnos	ERC	全体
反対	63.4	48.1	35.7	57.0	38.5	52.1
賛成	36.6	51.8	64.2	43.0	61.5	47.9

ハンガリー

	Fidesz	Jobbik	MSZP	全体
反対	27.0	24.0	31.2	27.2
賛成	73.0	76.1	68.8	72.8

ポーランド

	Kukiz'15	Modern Poland	Civic Platform	PiS	United Left	全体
反対	48.5	59.6	49.4	35.4	48.9	43.3
賛成	51.4	40.5	50.6	64.6	51.1	56.8

資料出所：ESS2016より作成

た人の実に64.2%がベーシックインカムを支持していることがわかる。「左翼ポピュリスト政党」以外の政党ではいずれの国でも「緑の党」の支持者がベーシックインカムを強く支持する傾向にある。他方、「右翼ポピュリスト政党」の支持者がベーシックインカムを支持する割合は非常に低い⁷⁾。

ところで、ベーシックインカムの導入によって、既存の社会保障制度はどのように置き換えられるのだろうか？図12は、現行の社会保障制度のモデル・ケースと、ベーシックインカムの

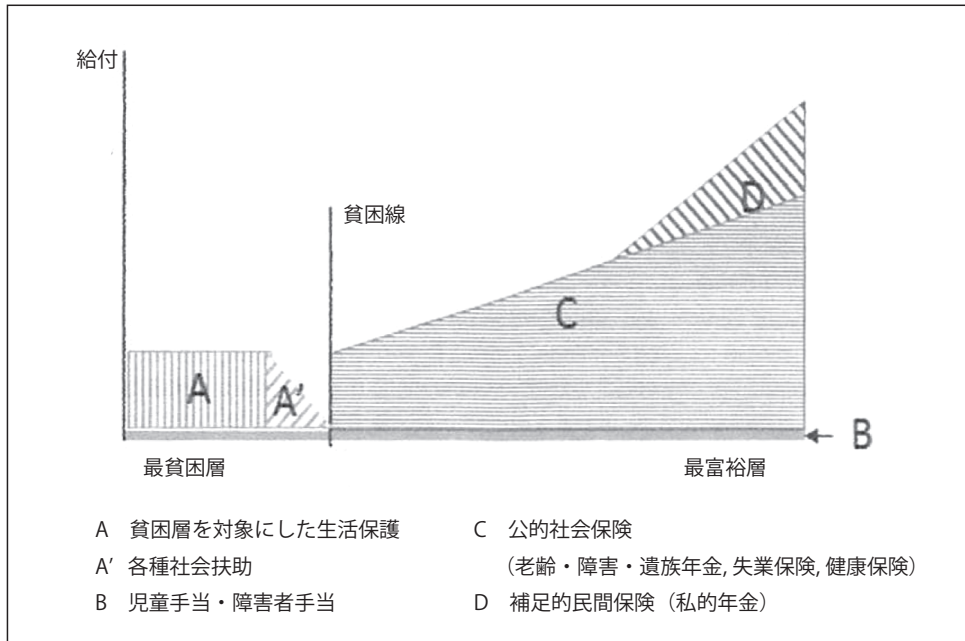
導入によって想定される3つのシナリオを示したものである。

社会保障制度は通常、社会保険によるセーフティネットと、税を財源にした生活保護による安全マットからなる。しかしながら、いざ生活保護から脱却しようと就労を始めると、限界税率が100%以上に働き、貧困の罠 (Poverty Trap) に陥る危険性が高い。そこで、この矛盾を解消するために構想されたのがベーシックインカムである。

ベーシックインカムの導入によって想定され

図12-①

現行制度



シナリオ 1

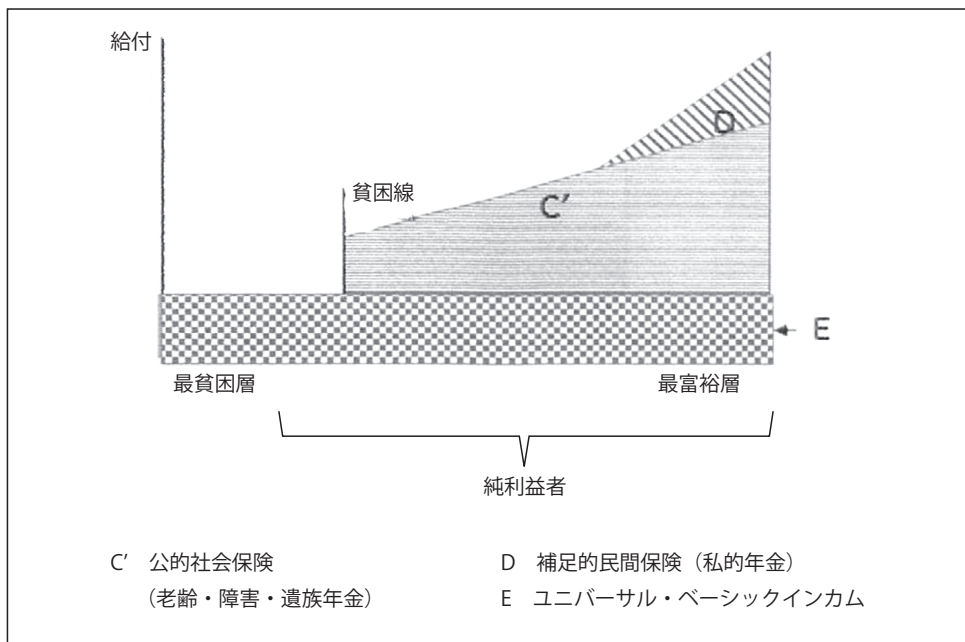
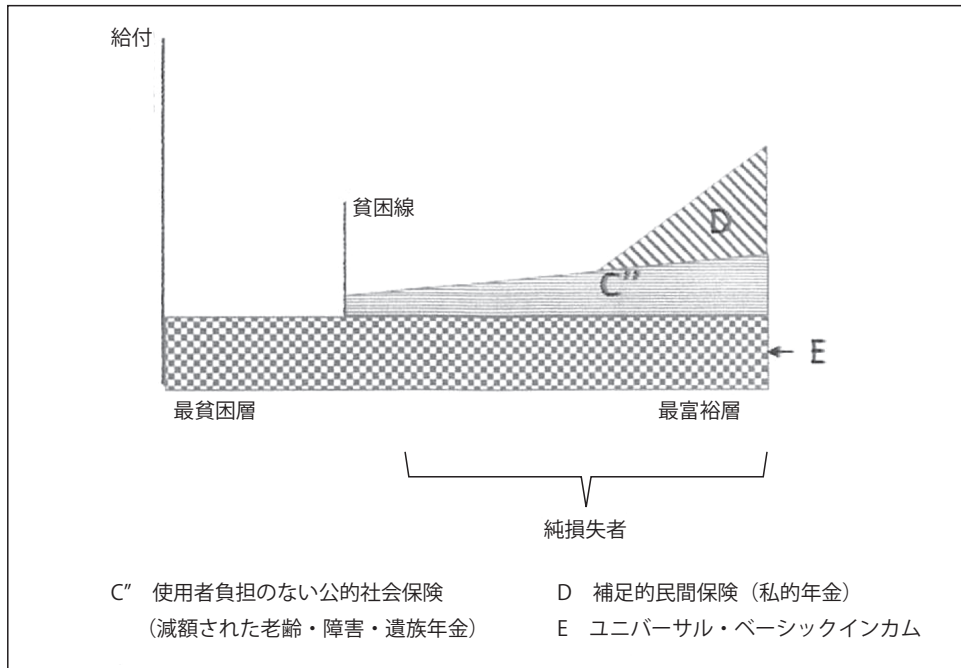
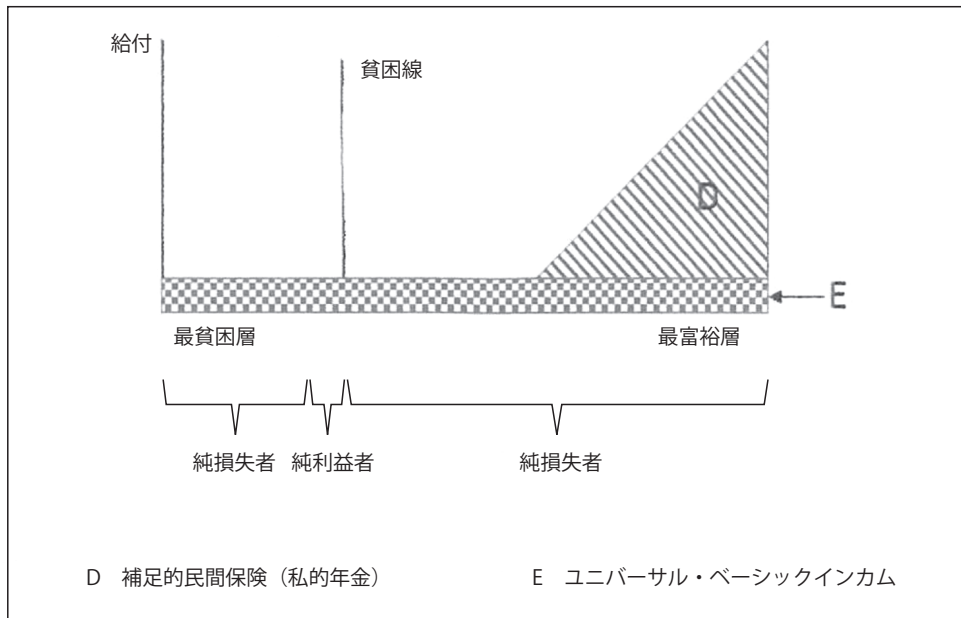


図12-②

シナリオ 2



シナリオ 3



資料出所：Ortiz et al. (2018), figure 6-9, pp.22-25より

る第一のシナリオは、既存の生活保護をすべてそれによって置き換えるとともに、現行の社会保険ならびに私保険にはいっさい手を付けず、貧困線以上で生活する者にも、同じようにベーシックインカムを支給するというものである。この場合、純利益を得るのは、従来の生活保護制度で貧困の罅に陥っていた者と、貧困線以上の者になる。だが、後述するように、その場合の費用はかなり割高となる。

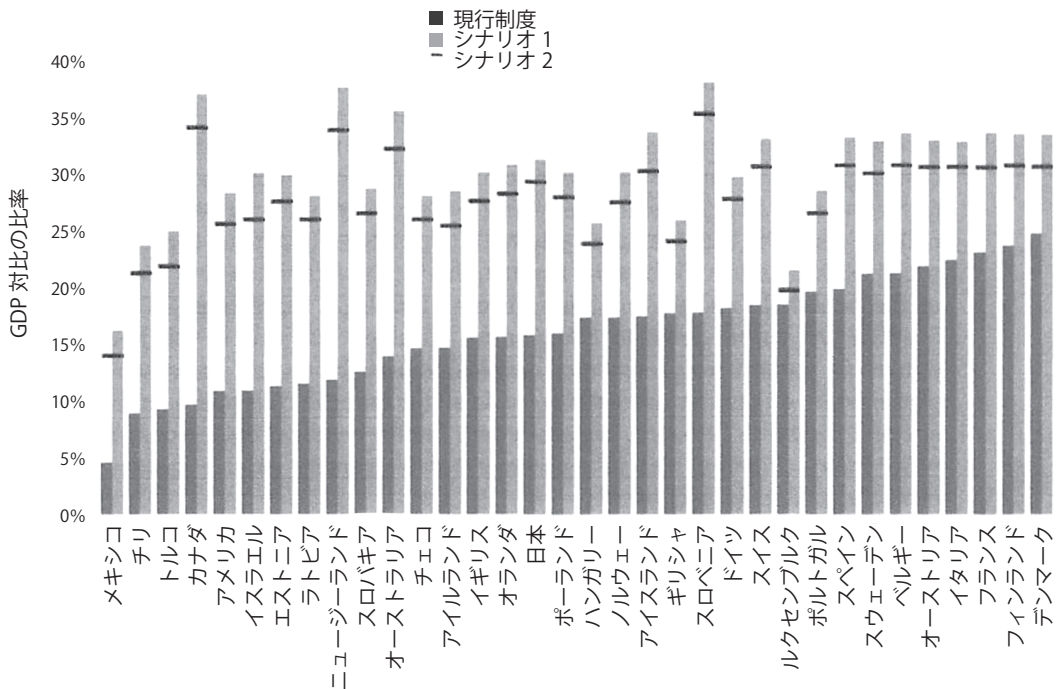
第二のシナリオは、社会保険に投じられている使用者負担を全廃したうえで、貧富にかかわらず国民もしくは住民一律にベーシックインカムを導入するというものである。このケースでは、既存の社会保険に加入していたほとんどの者が給付額を減らされるので不利益を被ることになる。

第三のシナリオは、企業年金や私保険だけを

残しつつ、現行の社会保険を全廃することと交換に、ベーシックインカムを導入するものである。この案は新自由主義を標榜する多くの経営者が支持するものだが、この場合、ベーシックインカム水準を貧困線以下に設定することになれば、従来の生活保護制度のもとで貧困の罅に陥っていたごくわずかな人々を除いてこの制度から利益を得る者はいない。

いま貧困線と同額のベーシックインカムを保障した場合、その費用はどのくらいかかるのだろうか？ 図13は、各国の社会保障制度を前提にしてILOが試算した数字である。ここには上記のシナリオ I とシナリオ II を想定した費用がそれぞれ試算されている。ベーシックインカムによって年々その費用が嵩む国民医療費を賄うことはできないので、各国の現行の社会保障費用からその国民医療費を控除した数値が比較のた

図13



資料出所：Ortiz et al. (2018), figure 5, p.21より

めに載せてある。

これをみると、シナリオⅠでもシナリオⅡでも、現行の社会保障制度よりもかなり割高な費用がかかることがわかる。たとえば、日本のケースでは、現行の社会保障費は国民医療費を除くとGDPの16%程度であるが、ベーシックインカムを導入すると、その費用はシナリオⅠでGDPの30%強、シナリオⅡでもGDPの30%弱かかる計算となる。

このように、ベーシックインカムの導入は国民もしくは住民一律に影響を及ぼすものではなく、その設計次第で勝者と敗者を作り出す危険性がある。また費用に注目すれば、その費用は現行の社会保障制度のそれよりも割高であり、逆にその費用を抑えようとすれば、貧困線以下のベーシックインカムしか保障できないというディレンマに陥ることになる。

政治学者のシュミッターは、「ポピュリズムとは、これまで不可能と考えられ、回避されてきた政治課題を一挙に解決できると主張する政治リーダーのもとで展開される政治運動」と定義したが、ベーシックインカムを看板に掲げる「左翼ポピュリスト政党」はまさにこの定義にふさわしい政党とみることができよう。

おわりに

以上で述べた主要な論点を整理し、結論に代える。

(1) 同じ言葉がまったく異なる意味で流通することがある。「ポピュリズム」という言葉にもそのことがあてはまる。不毛な論争を避けるため、ここではポピュリズムとは何かを定義することから始めた。CHES2014年データを使った主成分分析から、これまで「ポピュリスト政党」とされてきたものは、①「権威主義」対「リベラリズム」、②「反エリート

主義」対「エリート主義」、③「右翼」対「左翼」の3つの軸から整理できることがわかった。

(2) 1990年代までポピュリスト政党は特定の一部の国々に限られていたが、21世紀を迎え20年の歳月が過ぎたいま、ポピュリスト政党はヨーロッパのほぼすべての国で政治の表舞台に登場している。そのことは、①総選挙ごとの得票率をみても、また②議会で保有する議席数をみても、さらに③政権に参画している数をみても、もはや否定しようのない現実である。

(3) ポピュリズムが台頭した背景をマクロ・データから分析するとともに、誰がポピュリスト政党に投票しているのかをESS2016年データとESS2018年データを使って調べた。二項ロジスティック回帰分析の結果、ポピュリスト政党を支持する者には次のような共通する特徴があることがわかった。まず、低学歴の若者であること、失業経験があり、所得水準が低いことである。また、内外の政治に不信感を抱く者、さらに人間関係が希薄で、人生満足度の低い者はポピュリスト政党に投票しやすい。しかしながら、政党ごとの違いも大きい。性差が重要な政党もあれば、そうでない政党もある。また、ポピュリスト政党への投票が地域と深く結びついている場合もあれば、そうでないケースもある。さらに、極右思想と反移民感情は、右翼ポピュリスト政党への投票を語る際には重要であるが、左翼ポピュリスト政党とは無関係である。

(4) 他方、ポピュリスト政党の台頭に直面して、既成政党はいかなる戦略を採ろうとしているのか。ここではその戦略に、次の2つがあることを指摘した。①ひとつは、ポピュリスト政党の政策とできるだけ距離を採り、ポピュリスト政党を孤立化させる戦略である。

- ②もうひとつは、ポピュリスト政党との政策的距離を縮めて、同じプラットフォームの上で政党間競争を繰り広げる戦略である。ポピュリスト政党の存在感が大きくなるにつれて、前者の戦略から後者の戦略へ移行する国が増えており、ここで取り上げたオランダにおいてもそのような傾向がみとめられることがわかった。
- (5) 最後に、「左翼ポピュリスト政党」の登場に期待する声があることを指摘したうえで、そのマニフェストにある個々の政策が長期的に実効性があるのかを、ベーシックインカ

ム構想を1つの事例として取り上げ、検証した。ベーシックインカムは決して中立的な制度ではなく、その設計方法次第で勝者と敗者を作り出す危険性がある。またその費用は、現行の社会保障制度に要する費用よりも割高になる公算が大きく、逆に費用を抑えようとすれば、ベーシックインカムのもつ最低所得保障機能を失わせることにつながる。したがって、長期的に請け合わない政策とそれを声高に喧伝する政党に対しては、くれぐれも慎重でなければならないといえよう。

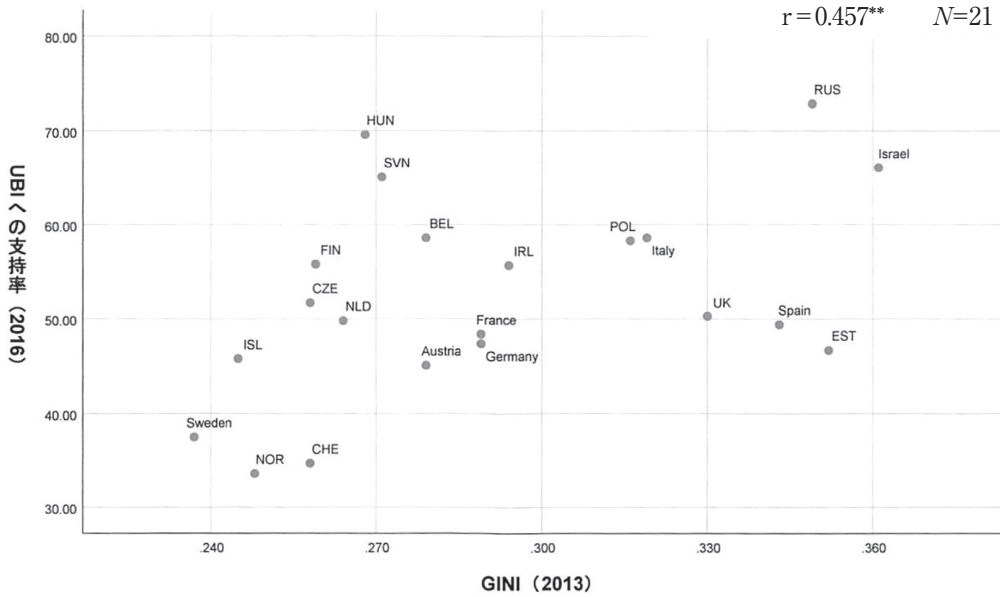
注

- ①なお、深刻な国債危機に陥り、債務不履行となったギリシャはCSRの対象外である。2015年12月、チブラス政権のもとでギリシャは、IMFとEUからの金融支援と引き換えに国有資産の売却民営化、構造改革、緊縮財政政策を渡々と受け入れざるを得なかった。
- ②ただし、例外はオランダである。ヨーロッパの中で失業率が非常に低いオランダでは、「失業経験」があるかどうかよりもむしろ、「期限付き雇用」に就いているかどうかが労働者を分ける重要な基準になっており、このことが自由党(PVV)支持にも影響する。
- ③交差項を入れた推計も行ったが、統計的に有意な結果は得られなかった。
- ④イングレハートが使ったデータは、ESSの2002年から2014年までのプールド・データである。したがって、サンプル数は29万3856人にも及び、個々のポピュリスト政党別に推計したここでの結果よりもはるかに頑健性が高いといえよう。しかしながら、ポピュリスト政党を個別に分析すると、政党ごと国ごとの特徴がつぶさに

わかり、その意味ではポピュリスト政党を一括して扱うよりも有意義な結果が得られると考える。

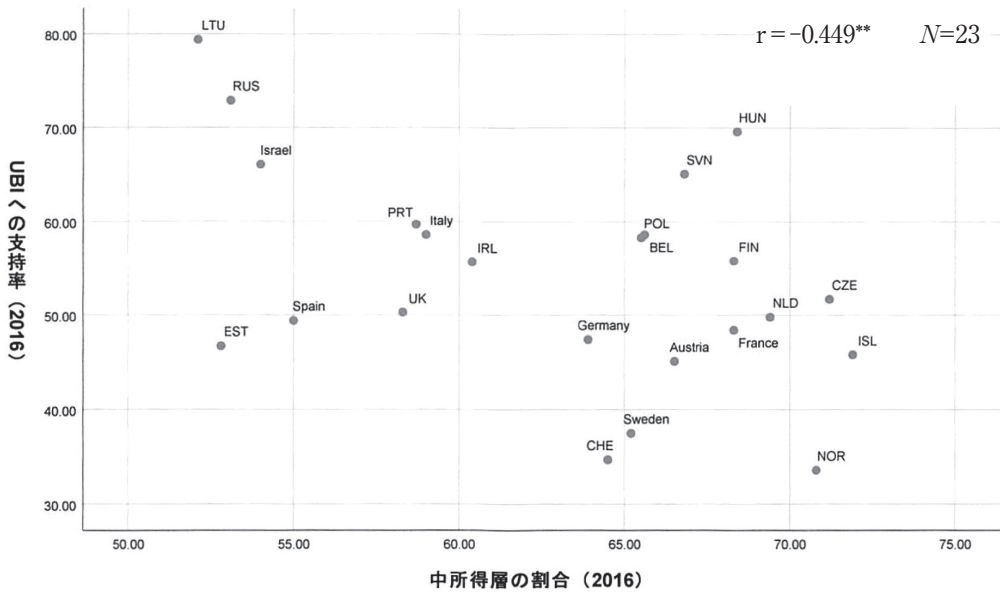
- ⑤オランダの移民問題については、下平(1991)および下平(2007)を参照。
- ⑥EU首脳が描くユーロ危機の再発防止策については、下平(2013)を参照。
- ⑦国全体でみると、付図1と付図2に示したように、ベーシックインカムは東欧や南欧のような可処分所得の不平等が大きく、また中産階級の比率が低い国で支持される傾向がある。また、ESS2016のマイクロ・データを使って、ベーシックインカムへの支持を決める要因を調べると、付表1に示した結果が得られる。すなわち、ベーシックインカムは、失業経験があり、所得水準が低い、男性の若者によって支持されている。また失業給付やその他の社会給付を受けている者はベーシックインカムを支持する傾向がある。さらに極左思想をもつ者はベーシックインカムを支持している。だが、ベーシックインカムへの支持は国による差がきわめて大きい。

付図1



資料出所：ESS2016およびLIS Inequality Key Figures(2017)より

付図2



資料出所：ESS2016およびOECD(2019)より

付表1 ベーシックインカムへの支持の決定要因

データ：ESS2016 分析方法：二項ロジスティック回帰
数字はExp (B)、***1%、**5%、*10%

年齢 (スケール)	0.992***
性別 (ダミー)	1.060**
就学年数 (スケール)	1.001
国 (ダミー)	***
失業経験 (ダミー)	1.194***
期限付き雇用 (ダミー)	1.038
所得階層 (スケール)	0.874***
年金受給者(ダミー)	1.051
失業保険受給者 (ダミー)	1.348***
その他の社会給付受給者 (ダミー)	1.317***
極左思想 (ダミー)	1.282***
NR ²	0.081
N	25532

資料出所：ESS2016

参考文献

- ①Algan, Y., Beasley, E., Cohen, D., and Foucault, M.(2018), "The rise of populism and the collapse of the left-right paradigm: lessons from the 2017 French presidential election", *CEPREMP Document de travail* no. 1805
- ②Braudel, Fernand (1966), *La Méditerranée: et le monde méditerranéen à l'époque de Phillippe II*, 浜名優美訳 (2004)『地中海 V 出来事、政治、人間1』(藤原書店)
- ③Colantone, I., and Stanig, P.(2018a), "The Trade Origins of Economic Nationalism: Import Competition and Voting Behavior in Western Europe", *American Journal of Political Science*, Vol.62, No.4, pp.936-953
- ④Colantone, I., and Stanig, P.(2018b), "Global Competition and Brexit", *American Political Science Review*, Vol.112, No.2, pp.201-218
- ⑤Efstathiou, K., and Wolff, G. B. (2018)," Is the European Semester effective and useful", *Brugel Policy Contribution*, Issue no.9
- ⑥Guiso, L., Herrera, H., Morelli, M., andSonno, T.(2017), "Populism: Demand and Supply", *CEPR Discussion Paper*, No.11871, pp.1-61
- ⑦Guiso, L., Herrera, H., Morelli, M., and Sonno, T.(2018), "Global Crises and Populism: The Role of Eurozone Institutions", *EIEF Working Papers Series*, No.1806, pp.1-41
- ⑧Inglehart, Ronald F.(1977), *The Silent Revolution: Changing Values and Political Styles Among Western Publics*, Princeton University Press, 三宅一郎・金丸輝男・富沢克訳 (1978)『静かなる革命—政治意識と行動様式の変化』(東洋経済新報社)
- ⑨Inglehart, Ronald F., and Norris, Pippa(2016), "Trump, Brexit, and the Rise of Populism: Economic Have-Nots and Cultural Backlash", *Faculty Research Working Paper Series*, RWP16-026, August 2016, pp.1-52
- ⑩Kitschelt, Herbert(1994), *The Transformation of European Social Democracy*, Cambridge University Press
- ⑪Kitschelt, Herbert(1995), *The Radical Right in Western Europe: A Comparative Analysis*, The University of Michigan Press
- ⑫水島治郎 (2016)『ポピュリズムとは何か—民主主義の敵か、改革の希望か』(中公新書)
- ⑬Mouffe, Chantal(2018), *For a Left Populism*, Verso
- ⑭Mudde, Cas and Kaltwasser, Cristobal Rovira (2017), *Populism: A Very Short Introduction*, Oxford University Press
- ⑮Ortiz, I., Behrendt, C., Acuna-Ulate, A., and Nguyen, Q.A.(2018), "Universal Basic Income

- proposals in light of ILO standards : Key issues and global costing”, *ESS-Working Paper*, No.62, pp.1-54, Social Protection Department, ILO, Geneva
- ⑯OECD (2019), *Under Pressure: The Squeezed Middle Class*
- ⑰Schmitter, Philippe C.(2006), *A Balance Sheet of the Vices and Virtues of Populism*, European University Institute
- ⑱下平好博 (1991) 「オランダの移民労働者と社会的統合政策」社会保障研究所編『外国人労働者と社会保障』（東京大学出版会）217-255頁 所収
- ⑲下平好博 (2007) 「転機に立つオランダの移民統合政策」『季刊労働法』219号、52-71頁 所収
- ⑳下平好博 (2013) 「ユーロ危機と『ヨーロッパ社会モデル』のゆくえ」武川省吾編『公共性の福祉社会学—公正な社会とは』（東京大学出版会）141-166頁 所収
- (しもだいら よしひろ、人文学部教授)